Diary. August1. Sunday.　春風沈酔的晩上。

日記。日曜日、８月１日。

日本語のウィキペヂアで下掲を読んだ。

今日の New York Times　朝刊も注目している。
米国で封切したようだ。

★『スプリング・フィーバー』（原題）春風沈酔的晩上。

CHUN FENG CHEN ZUI DE YE WAN　（Spring Fever）

"原題『春風沈酔的晩上』は中国人文学者・郁達夫の作品名と同じだが、内容的にはまったく別で、2 人の男と 1 人の女の関係を描いたもの。

同性愛を扱っているために検閲にひっかかり、中国国内では上映が禁止されている。ロウ・イエは 2006 年にコンペに出品した『天安門、恋人たち』で、タブー扱いされてきた天安門事件を扱い、大胆なセックス描写を理由に中国当局から活動禁止処分を受けた。カンヌでは 2003 年の『パープル・バタフライ』からの 3 度目の登場で、初受賞を狙う。" (公表された梗概からのまるうつし。)

(L-R) Chinese actors Wu Wei and Chen Sicheng, director Lou Ye, actress Tan Zhuo and actor Qin Hao attend the "Spring Fever" Photocall held at the Palais Des Festival during the 62nd International Cannes Film Festival on May 14, 2009 in Cannes, France. (Photo by Sean Gallup/Getty Images) *** Local Caption *** Wu Wei;Chen Sicheng;Lou Ye;Tan Zhuo;Qin Hao

アメリカが半世紀以上かかって歩んだ「性指向問題」の道のり全部を、中国庶民文化はたった１０年で疾走しているようだ。

心理分析"学"のシチメンドクサイ屁理屈はともかく、同性愛の事実とその基本的深層構造はなにもわかってなかったし、わかってない。

「訊くな、ダマットレ：Don't ask, don't tell.（＝DADT）」だけは方針として　クリントン政権によって確立された。

今の米国議会員一部の保守的信仰はまだ変わらない。

とにもかくにも、カンヌでこの映画は受賞した。
進歩の一種だ。

ただし、２０世紀は７ヶ月前に終わった。

春風沈酔的晩上。 チュンフォンシェンスイデワンシャン。

★ 東京の進也から。受信：米国時間、8月１日午前１時５６分。

昨日は夕方のパーティに出席した。4 年前の 7 月 31 日に亡くなった鶴見和子さんの命日の集い。昨年から恒例になったらしいが、去年は欠席したので知らなかった。だいたいが有名な人たちだが、僕は話を聞きに行ったのだから人と会うことは二の次。でも、声を掛けられ、元朝日新聞記者の由利幸子さんに会った。15 年前に文庫のことで取材されて、話をしたが、その記事が阪神淡路大震災の当日の夕刊に載ったものだから忘れられない。話は南方熊楠書簡集のことと、鶴見和子さんと和服のこと、の 2 編。ともに面白かった。

8 月に入ったけれど季節は暦をめくるようには変わらない。昨夜も寝苦しい夜だった。金さんが書いていたように今月下旬になれば、涼風も吹くかもしれない。しかし、今日も明日も当分は暑い日が続く。

きのう書いた記事の、「戦艦大和…」は、ちょっと混乱していて、この本自体は千早さんの本で、主題になっている「戦艦大和」に関する戦記は吉田満の著作。戦後すぐに執筆されながら占領軍に発表をさしとめられ、さまざまに改作したりして雑誌に載せたりしたが、講和条約で日本の独立が回復してようやく最初の形で出版された。この吉田さんの戦後が、主として勤務した日銀にかかわるので読んだ。大和の乗員として戦闘に参加、かろうじて

生き残った吉田さんは、戦記を書いただけでなく、戦中派、だいたい 1920 年代生まれの世代の代表として発言し、50 代で亡くなった。彼の人生の同伴者として生涯を描いたのがこの本だ。千早さんは日銀の同僚で、吉田さんとは仲が良かったらしい。進也、10 時半

★　紐育の金さんから。受信米国時間、８月１日。午前１時５８分。

矢口さん　日記が　毎日　届くので　一日が　始まり　そして　区切りがつくようで　ありがたい。
７月が　ようやく　済みます。今年の　７月は　９０ｆ(32f+)　以上の　記録的な　高温が　続きました。 高温の　割には　湿度が　低く　毎日　１０マイルの　風が　吹いて　寝苦しい　夜もなく　割りに　過ごしやすかったように　思います。それでも　ゴルフは　３週間は　休みました。 ところで　脚の　しびれのため　MRI を　とり　脊髄の　下端の　４つの　骨の　間隔が　少しづつ　狭くなっているのが　わかりました。 それも　disk　です。そして関節炎も　あるというので　薬を　もらい　来週からは　物理治療を　受けることにしました。腰が　痛いことはなくゴルフをしても　かまわないと　言われましたので　無理をしない　範囲で　ゴルフを　するつもりです。ジムには　普通の　通りに　行く予定にしております。皆さん　お元気で。

★

Diary. August2. Monday.　増刊委細の裏話、関千枝子著書。

日記。８月２日。

今日はチャックの在宅日。
電話で襄と進也と話した。
上智大学の学生さんから、第二次大戦中陸軍に志願して欧州で戦った日系米国人部隊に関係がある質問を受けた。委細は書かない。
静かな一日だった。こうゆう日もありがたい。

（日本）半世紀以上まえの少年時代、大学受験用トラノマキという種類の書籍があった。
欧文社というのがあって、受験英語トラノマキってのがあったのを覚えている。
その類のカイセツ書がこちらにもある。
「Idiot's　XXX]というシリーズだ。

僕は西洋史とはこちら風に一緒に育たなかった。
だから、こんな書物はぼくのような素養不完全な人間の穴埋めにはもってこい。

それで、「馬鹿の羅馬史」は座右の書だ。勿論、古典教育のさなかで育ったチャックがそばに居るから、彼が字引きになってくれてはいるが。

昼ね前に、寝台でそのまごびき羅馬史を読んだ。

★　新潟の襄から。８月２日（月曜日）

とむさん

矢口さんが取り上げている出来事、木乃伊と子殺し。
私には、子殺しが重く感じられます。
親に殺される子の無念さは、雪ぐことなんてできません。
子が親を殺す尊属殺人の重罰規定は廃止されましたが、
こう子殺しが横行する時代になってしまっては、新たな尊属殺重罰規定が必要です。
子どもは、たとえ親から虐待を受けていても、決して親を悪く言わないのです。
それが、虐待が発見されにくい一番の理由なのですが、そんな親に生きる資格はない。
子どもを育てることがどんどん難しい時代になっていますが。

長岡祭です。
花火が上がる音が、聞こえてきます。
離れていますが、ちょっと見てこようかな。

譲介

★　東京の進也から。

how details 10:15 PM (3 hours ago)

昨夜は用心してしっかり寝室を気温調節し、26 度にして寝たのでよく眠れた。当分はこのようにする。実は昨日帰宅したら部屋が涼しいので、しまった、と思った。冷房を切ることを忘れて出勤、誰もいない部屋を 1 日中冷房したことになる。電力の無駄だ。気をつけねば。

昨日、注文した本が届いた、という連絡を東京堂書店からもらっていたので受け取った。持ち帰って食事をしているときに見たら、注文の６刷でなく、５刷だった。これでは困る、また戻って事情を説明して取り換えるように手続きした。僕の注文がややこしいので窓口の人が連絡先をと訊くので図書新聞、と名乗ったら、ああ、だから詳しいのですね、と了解された。この本、関千枝子著『広島第二県女二年西組』はすごい本で、原爆で死んだ二年西組全員の「その日」を記録したものだ。病気欠席した著者他６人だけが生き残った。初版が出た１９８５年に僕は読んで、ほとんど一生をかけた本だと思った。「ちくま」という PR 誌に、第６刷が出るについての感想を関さんが寄せていたのを読んで、もう一度読みたい、ちょっとの訂正の入った第６刷がほしい、と注文したのに、その前の５刷では困るというわけだった。書店の人が言うには５刷と６刷では値段が違うのだそうだ。おそらく増刷は数千の単位だろう。原価計算すると価格を上げざるを得ない。筑摩の人は読者に少しでも安いものをと思ってまだ残っていた５刷を出荷したのだろう。ややこしい手違いだった。君には雑誌の「ちくま」を送ろう。

さて、明日の出勤で、次の号がお盆の休みで１週抜けるので、１１日休める。病院行きやら若干の用事はあるが暑いさなかは出かけずに済みそうだ。本を読んで過ごすつもり。進也、１１時１５分

★　Thomas.

娘のアナスタシアが具合がわるくて、コネチカットで入院しているが、まだ大学生の時直腸の手術を受けた時の「古傷」がこじれているらしい。心配だ。

３０年前大学図書館時代前僕が雇って”育て”たぶ部下が隠居時期を少し過ぎても Bibliographer として働き続けて居たが、こんど「整理」されたらしい。僕の世代では、「整理」なんて考えもしなかったし、有能な司書は仕事をほとんど死ぬまで続けたものだった。世知辛い世の中になったものだ。

もとの部下の一人から知らされたとき、返す言葉がなかった。「本を読む」司書たちがどんどん消えていく。

★

Diary. August3. Tuesday.　隣町青物卸市場風景写真二枚。

８月３日（火曜日）

★　新潟の襄から。
とむさん

今日は朝から晴れて、気温も上がりました。
一日学校でＰＣに向かって仕事をしていました。
教務室は空調が効いているので涼しいのですが、
室温の微調節ができないために、私の席では寒すぎます。
で、長袖の上着を持ち出して着ていました。
明日も明後日も、同じように学校ですが、
午前中には子どもたちが数名学校に来ます。
補習学習ですね。
これまでの学習でつまずきや理解不足を感じている子たちが
集まってきます。
少人数の個別指導です。
これは空調無しの教室での活動ですから、暑さを覚悟します。

義父が亡くなったばかりですが、叔父も危ないと連絡が入りました。
いつでも対応できるようにと、母からの連絡です。
病人を抱えた家族は、大変でしょう。

★　Thomas：

今日は火曜日だが、チャックは耳鼻咽喉科の定期検診受けに都心に出て、お御堂で働き（！！）、レディング市場で野菜を買って、午後２時に戻った。

彼はまだ７０歳近くで僕より１４歳若いが、種々の障害で毎月の医療費が僕の完全に二倍だ。母親の喫煙後遺症の恐ろしさが身に沁みる。

少し暑いようで、平凡な一日だった。室内温度は全日　Ｆ７２度に固定してあるので、日本の友人が語る日本のあの茹だる様な湿った暑さは全然感じない。

一週間前にチャックと一緒に隣町町外れの青物卸市場で薔薇鉢植え１５鉢を週末の教会晩餐会のために仕入れた。その時撮った風景写真二枚を忘れてた。一鉢１ドル５０セントってのがこれだ。従業員は全員ヒスパニック。

Diary. August4. Wednesday.　イラク・クルヂスタンとクルド族の行方。

日記。８月４日。

ペンシルヴェニアの東北地帯、フィラデルフィアから北へ自動車で二時間ぐらい山岳を越えて走る場所にスクラントンの町がある。昔からあのころの運河発掘とアントラサイト石炭炭鉱で欧州から労働移民がわんさと投入された田舎町だ。

僕が大好きなバイデン副大統領はこの労働町の出身で、オバマのようなアイヴィ出身じゃない。なまっちょろいことを言ったことがない。一生蹴飛ばされながら育っただけに、虐げられた少数民族の歴史背景をちゃんと読み取る底力がある。今度の大統領選挙時期にだって、ずばりと彼は最初からイラク三部分割を主張した。

お上品なミンシュシュギ新イラク建設を主張する一般インテリとは違った新鮮味を持っていた。クルド族の苦悩を感じ取っていたのは、彼だけだった。

（東洋の政治家で、あそこに目をつけてる人物が居るかしら？
クルド文化が何処にあるかさえも知らないだろう。）

クルド自治区。

彼らは外国干渉と自治権なしの生活にもかかわらず、自治を認められてからこれまで築き上げた。

朝鮮族がたどる道とよく似ている。

異論はあるだろうけど、アメリカ軍の庇護なしにこれだけの建設はできなかったと思う。

http://www.youtube.com/watch?v=EzoEJW0KDGo

http://www.youtube.com/watch?v=TJOz4X3gylU&feature=related

イランによる、イラク・クルヂスタンの国境地帯爆撃

http://www.youtube.com/watch?v=ReEL9UkrxlA&feature=player_embedded

Diary. August5. Thursday.　老い行く親の世話。

日記。2010 年 8 月 5 日。

★　アナスタシアが再度入院していたが、今日退院してレディングに戻った。
３５年前に受けた腸手術の傷跡がこじれて、再度手術を受けたわけだ。
幸運にして、まわりには親類がわんさと居るから安心だ。

僕たち二人はクリスマスまで会いには行けないだろう。

一方、僕たちの生活は平凡、平安そのもの。

★東京の進也から。9:36 PM (3 hours ago)

朝、6 時半には暑くて目が覚める。仕方がないから起きだす。こうして 1 日が始まる。しかし、気候はちょっとずつだが変化する。今朝はちょっと風があって、気温の割にはしのげる。30 度になったところで冷房に切り替えた。

隣の空き地、建物を撤去した後の空き地が、毎年夏前に雑草を払うのだが、今年はやっていなくて、雑草が人の背丈並みにのびてしまった。どうするのかと思っていたら、昨日から雑草取りを始めた。だいたい３日はかかるが、今年はどうか。なにせ目下は夏のまっさかりだ。ひとりでやっているから大変だと思う。僕の家の周囲もだいぶ伸びているが、涼しくなるまでは手をつけない。

今日は、掃除洗濯から始める。

昨日、図書新聞から書評用として預かった本は歴史ものが多い。偶然だろうが、中に古代東北の歴史を概観した本があって、これがおもしろい。蝦夷とかエミシと呼んで辺境人の扱いだが、これをすべてアイヌと考えるのは間違いらしい。古代の日本は西国と東国に分かれていて、東国は長く西国の支配になびかなかった。こうしたことを、倭王武（日本では雄略帝に擬せられる）が中国に朝貢した時の文書から推定する。こういう視角もある。

それから、40 代の女性作家の古本を扱ったブログを本にしたものもあった。まあ面白い。ある本（1960 年ころ）を見つけて、その本に著者の自筆原稿が入っていたことに驚いてそれを記述する。しかし、僕くらいの年齢のものは、この本の出版時を知っていて、付録として自筆原稿を 1 冊 1 冊に入れるとしていたことも知っている。しかし、３０年以上後の人には驚異らしい。こんなことはあちこちにあるわけだ。進也、１０時半

Thomas 註：　わかる。わかる。僕だって司書だったから。今の日本の大学図書館だったら、ちゃんと修士なり博士過程の子を覚えてるし、知ってるしどんな本を読んでるかまで覚えてる司書さんはもういないだろうね。チャックは図書館関係がかりの司書だったから、研究書探しが職務で、米国中のどこに何があるかを諳んじていた。（僕たちの大学図書館は学生が１０００人そこそこで、教授が２５０人ぐらい。蔵書数が４０年前に１００万冊

を超えた。学術雑誌の取り寄せ先が２３カ国だった。）

僕世代の世の中はもう終わった。

★　新潟の襄から。　　８月５日（木曜日）

とむさん
暑い暑い。
この夏一番の暑さ。
夏はこうだった！！と、思い知らされるような、
じっとりとした、絡みつく暑さ。
周りの熱い空気がべったりと貼り付いて、皮膚の毛穴まで塞いでしまうような、
息苦しい暑さです。ウンザリです。
日本中が暑かったようです。

帳簿上１００才を超えているはずの人の生存確認ができないままのケースが
多々あるということで、俄に TOP ニュースです。
子どもに糺しても、知らないでいる例が続出しています。
生きていることにして、年金を受給する・・・・というような詐欺行為と結びついて、
不正が行われているのではないかとの疑念も。

しかし、こんな事態は当然起こるべくして起こったのだと思いますね。
日本のように、老人の介護や世話を、家庭内労働に任せてしまうやり方では、
年寄りを持て余してしまうに決まっています。
特に日本では、家庭の女の排他的役割として社会通念化してしまっていて、
それを打ち破るような制度的改革がないまま、むしろそんな社会通念に乗っかって、
まともな制度設計をして来なかった。
そのツケだと思います。
年寄りが、社会の、特に家庭の、完全な重荷になってきている。
「家族の絆」などという精神論では、とてもじゃないけどやっていられません。
その結果の一つがこれだ、と思います。

だから私は、義父の最期をしっかり看取ることができたことを、
確実に衰えていく義父に寄り添いながら、できることはやって来たと、
少しばかり誇らしく思ったりもします。

★　Ｔｈｏｍａｓから。

そう。家内と僕が離婚しなくても、別々の生活を始め.
別れて歩き出したのは、君が指している論理でした。チャックと二人で老いていく母親二人の世話は息子である僕たちの義務だと考えたし、あえて歩き方を撰んだ。若い女性の奴隷扱いはごめんだった。

在来の全て女任せは不道徳だし、不合理です。

お互いに、僕たちは親の世話をしてよかった。

でもそう書いている僕も傘寿を越してしまった。
もう何時死んでもおかしくない。
できるだけ子供たちに迷惑はかけたくないと思ってます。
幸いに、アメリカではちゃんと介護施設がととのってる。

★

Diary. August6. Friday.　見付けたヴィデオ新次元。ポンペイの詳細。

日記。8月5日。

★　東京の進也から。8月5日深更。
今日は 8 月 6 日、広島原爆投下の 65 周年の日だ。毎年のしきたりだが、この日の平和記念式典は、テレビ中継がある。それを見た。今年はバンキムン国連事務総長やルースアメリカ駐日大使が列席した。

今朝はちょっと雲が多く、日差しはやや緩んだ。9 時には 30 度になったので冷房を入れた。
『躍動する日本神話』（森話社）という本を読みだした。あまり関心はなかったのだが、読んでみると面白い。古事記と日本書紀。この二つの正史がほとんど同じころ、書かれたのはなぜか。日本書紀は中国の影響があって、陰陽説にもとづく整理がなされ、イザナミの黄泉の国下りがない、とは知らなかった。つまり、書紀は国際性を持っているというのだ。古代東北には別の文化があったとする本も読んでいると、正史の編纂は統一国家像の必要からのものと思われる。進也、10 時半

★ポンペイ。

少し馬鹿げた話を書くが、今になってインタネットで、ポンペイの旅行録を見付けた。羅馬史を読むのにありがたい。

かねがね、あそこに行って見たいなとは思っていた、だが金も時間もなかった。

ナポリ博物館展示の情報がありがたかった。

http://www.youtube.com/watch?v=3V_tDy4dMD8&feature=related
http://www.youtube.com/watch?v=4zET9hkUMLU
http://video.google.com/videoplay?docid=-2905575413253067290#

Diary. August7. Saturday.　折り紙。

2010 年 8 月 7 日

★　東京の進也から。 受信：10:07 PM (1 hour ago)

今日もやはり変わらぬ天候だ。毎日同じような日が続く。外に出ていく気がしない。昨日は佐藤さん（古本屋の）が食品を届けてくれた。汗だくで申し訳ないが、これで助かっている。1 日おきに何か不足はないか問い合わせてくれるので、そのつど冷蔵庫と相談して補っている。お湯を沸かすポットがどうやら寿命らしい。断熱用のゴムパッキングがはがれ出している。買い替えなくては。それと、掃除機の紙袋がなくなった。これも補充できるかどうか。この機械も古い。メーカーがパナソニックだからなくなることはないと思うが、いろんな機器類が買い替えの必要に迫られつつある。

君のブリンモア大学時代の話、規模の比較で大連中学を考えてみると生徒数はほぼ同じだが、教師は 50 人くらいではなかったか。もちろん大学と中学では比較にならないが、図書数はもう比較にならない。もっと本を読む環境ができていれば僕らの教養もずいぶん向上したはずだ。
宿題の本は『躍動する日本神話』に入った。日本神話はもうたくさんだと思って敬遠していたが、読んでみるとちょっとおもしろいところもある。イザナミの黄泉下りが日本書紀にない、ということは前に書いたが、天孫降臨の記事で、アマテラスが子（アメノオシホミミ）がいるのに、なぜか孫のニニギを指名するのは、持統朝の時、子供が早く死んだので孫の文武天皇が即位するまで祖母の持統天皇が皇位にあったことをなぞっているのだという。それから、中世神話というのがあって、これは時代によって読み替えられる傾向を追ったもの。神仏が結合する本地垂迹説などは、いわば当時の新説だったわけだ。江戸時代は活字こそなかったが印刷は発達して、版本が出るようになった。本居宣長が古事記を寛永版の版本で読んだとは知らなかった。学問の発達には書物の流通が欠かせないこともこれでわかる。

最近の行方不明の老人の話、家族も知らないという人はどこかで死んでいる可能性が強い。行路病死者という役所の範疇があって、身元不明の死者は適当な名前をつけて葬るらしい。そういう人は書類上生きているわけで、考えてみると変だ。僕の家の近所にかなり古い家があって、ほとんど住人を見かけないが、たしか母親と息子が住んでいる。どちらも老人だ。どうなっているのだろう。僕なんかもひとりで暮らしているが、あの家は奥さんがいたはずなのにずっと見かけない、などと噂されたりしていないかな。13 年も不在なのだ。進也、11 時

★Thomas から：これだから、君との文通が愉しいんだ。本居宣長が古事記を寛永版の版本で読んだとはね。そして、「アマテラスが子（アメノオシホミミ）がいるのに、なぜか孫のニニギを指名するのは、持統朝の時、子供が早く死んだので孫の文武天皇が即位するまで祖母の持統天皇が皇位にあったことをなぞっているのだという。」あのころの、日本・朝鮮関係で、皇統が問われてたのかも知れないね。

★新潟の襄が担任の子供たちからの手紙をまた送ってくれた。
なんだか、日本に孫が居るような気持ちになる。子供たちは何時も折鶴や折箱を同封する。
★

(デトロイトで 40 数年前に住んでいたアパート。右側の塔の最上階。)
長女アナスタシアが小学校一年生だったデトロイト公立小学校の話だが、ある日彼女が教室で「風船」と「折箱」を折ってみせたらしい。

それが評判になって、担任先生がノートを僕に寄越した。当時のアメリカでは「風船」が驚嘆の的だった。

アナスタシアに東洋出自の誇りを持たせたのが折り紙の箱だった。

折り紙にはそのような背景がある。

（長女が通った小学校と僕たちのアパート。その学校はアパートから見下ろせた。）

Diary. August8. Sunday.　死人年金くすねと行政的くすね。

日記。８月７－８日。

今日は８月７日土曜日。チャックのお御堂出勤日。
昼食には「禁断」の信州蕎麦を煮て、即席の「おつゆ」で楽しんだ。
そのかわり、夕食には小さなオイスター油漬け缶詰を開けて、楊枝でつっついて、ウイスキーと一緒に済ませた。
（日本酒が恋しい。）チャックは午後８時に戻る。

筑摩書房の「ちくま」が届いた。
関千枝子の「広島第二県女二年四組」委細を興味深く読んだ。

★　新潟の襄から。 受信：８月７日（土曜日）
とむさん

お嬢さんが退院されて、良かったですね。
医学は日々進歩しているわけですから、昔の手術あとなんか
簡単に処置できるだろう、なんて考えると大間違い。
一度手術をした場所は、なかなか手出しがしにくい状況になっているらしいですよ。
息子は心臓の手術を３才と１５才と２回やりましたが、一度切った箇所が癒着してしまっていて、
それを切り開くのにとても時間が掛かったと言われました。
出血もひどかったそうです。
１回目は４時間。２回目は８時間掛かりました。

あ、とむさんの心臓も、一度埋めたステントが詰まってもう一度、でしたね。

今日も暑い一日でした。
家内は親戚の法事。
２２日にも別の親戚の法事があり、２８日には義父の４９日法要です。
そのたびに、時間も金も、どんどん無くなっていくんですね。

夕方、学校の花壇に水撒きに行かなければならないようです。

★　Ｂｌｏｇ仲間の　Ｊａｐａｎｅｓｅ－ｆｕｌ君の［毒舌一言］。

「死んだ人に年金支給
テーマ：ブログ

なんか、死んでないことにして

もらい続けたのか？

なんて流れで

言われてるみたいですけど、

行政側のところで、
か
架空の口座を作ってくすねてたって、

そういう臭いはないんですか？」

● この友達のＢｌｏｇは毎度「英国的辛辣さ」を浮かべる寸隙会話の連続。

面識はないが、まだお若いのに、完全に日本人離れしてる。
会話の寸劇的把握が見事な書き方だ。何時も感心する。

一読を薦める。

http://profile.ameba.jp/japanese-ful/

★★★

Comments

1 ■ご紹介いただき、ありがとうございます。

ボクは日本人代表のつもりでいるんですけど、

外国の方によく言われますね。

「日本人じゃないみたい」

日本人からはこう言われます。

「人間じゃない」

japanese-ful 2010-08-10 09:42:05

2 ■Re:ご紹介いただき、ありがとうございます。

＞japanese-ful さん

(爆)　僕もね、

太平洋戦争直後に、アイコクシンに満ちて朝鮮半島に父母と「戻ったら」同じようなことを言われましたよ。

テメエは日本語と英語ばかり話す。

それでも人間か？ってね。（笑）。

だけど、そう育られてしまったんだから、しょうがなかった。だから、アメリカに逃げてきたわけ。

thomas-penfield 2010-08-10 20:41:23

3 ■> それでも人間か？

アッ、それ、半島でも言うんですか？

「それでも朝鮮人か」

でなく

「それでも人間か」

【外国人】と言わず、

【外人】と言うのは、

日本だけかと思っていました。

japanese-ful 2010-08-11 00:31:32

4 ■Re:> それでも人間か？

＞japanese-ful さん

国家主義って何処でも似てるようですね。

憎悪として出てきたり、畏敬として出てきたり。

だから、僕はあのころ東洋を棄てたわけ。

国家主義な先入観が充満してたから。

こっちに来て１０民族の血液が這入ってる一族を持って、今ではどっちがどっちかわかったもんじゃない。笑。

アメリカ生活の僕の老後は幸福です。

thomas-penfield 2010-08-11 17:09:56

Diary. August8. Sunday.　少年時代の夢：グライダーと空飛ぶ少年。

日記。２０１０年。８月８日。米国時間早暁。午前２時１６分。

★ Ｔｈｏｍａｓ．　御伽噺。ある夢。

日本内地生まれの今の読者には想像もできないだろうが、中学３年から４年の太平洋戦争終末期にかけて、（１９４３－４５）、大連中学ではグライダー訓練をドイツ式に受けた。まるで、ヒトラー・ユーゲントだった。

「藍より青き、
大空に、大空に、
たちまち開く、百千の、

ま白き薔薇の花模様、
観よ落下傘、空に降り、観よ落下傘、空を行く、
観よ落下傘、空を行く」

（空の神兵。http://www.youtube.com/watch?v=dDggURZirxQ）

とは言っても、当時のグライダーは原始的だった。
搭乗席に生徒一人が座り、長い引き縄を、その縄に沿って並ぶ僕たちが号令にあわせて引いて、歩き、また走るのだ。
１０メートルの高度ぐらい飛んだらまだましだったと思う。
でも、カッコ良かった。僕は勿論飛んだことはないが、縄引きはさせられた。

指導教官が黒岩正一先生という若い体操教師だった。
スマートな先生で、国祭日儀礼では大連中学の校歌伴奏のピアノを弾く人だった。

日本降伏前に彼は応召して、(関東軍だかに）送り込まれて消息を絶った。ほぼ半世紀あとに、アメリカで僕は彼が熊本に生きていられることを知った。

メモには（熊本市、健軍町錦が丘＃４４４１）とある。勿論３１年前の記録だ。生還されたことを知って、有難く思った。グーグルで調べたら、熊本市の東郊外に健軍町駅があって、陸軍自衛隊の基地があるらしい。
その基地の西側であるようだが、その地図に錦が丘は記載されていない。だがこんなことまで、アメリカから調べられるようになったものだ。
勿論、先生はこの世の人ではあるまい。

★

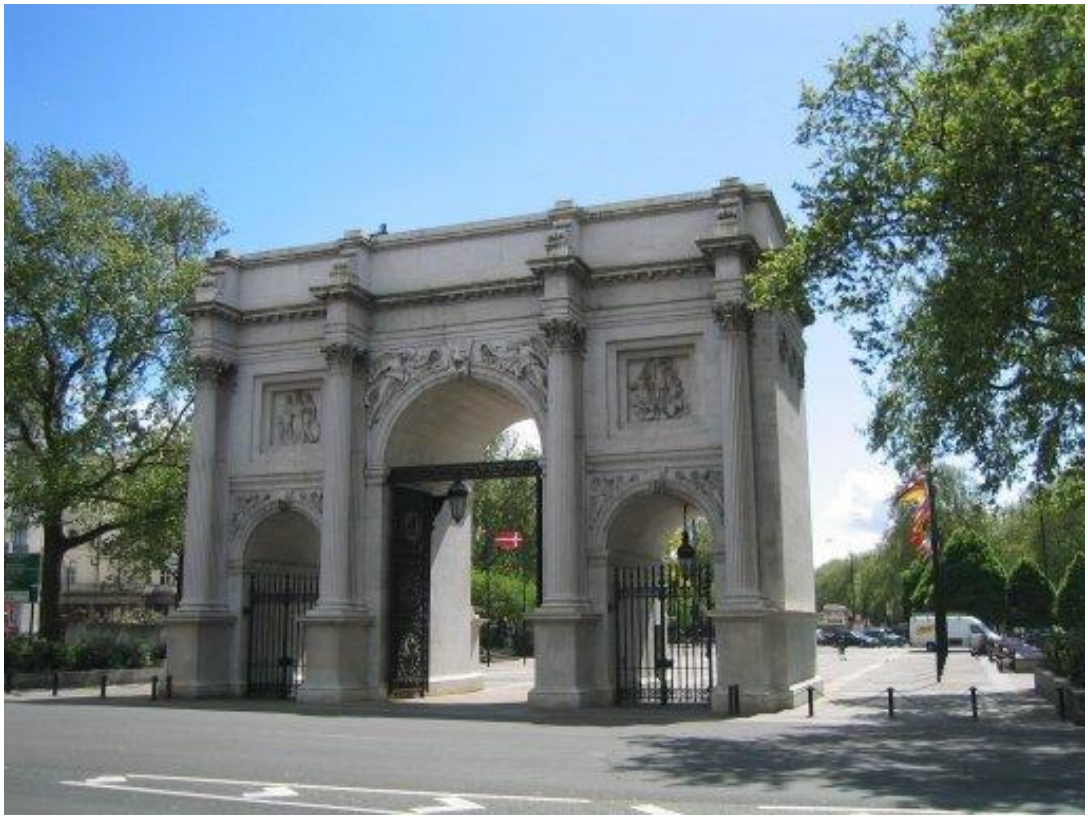
１９４３年だったから、戦争の真っ最中で、人心はもうだいぶ荒れていた。
暴行が頻発し、学校では僕はしょっちゅう殴られてばかりいた。
教師さへ些細な理由でも生徒をひっぱたくのが当たり前な世の中だった。
僕は機会があれば、伏見台のカトリック教会に逃げ込んで、そのお御堂で過ごした。
孤独だった。
お祈りができた、そのお御堂は天国のように思われた。

グライダーにまつわって、そのころ、よく夢を見た。

その夢に、毎度現れて来る少年が居た。

空を飛ぶ神通力を持つ少年で、黒い傘をいつも持っては僕の夢に現れた。

毎度その少年が、呪文を唱えながら、僕の左手を手に掴み、黒傘をブルンブルンと振り回し、それを西に向けると、即座に僕たち二人は毎晩のようにロンドンのハイド・パーク公園に飛んだ。



午後７時過ぎに、(禁じられていた）短波でハワイＫＲＨＯ放送局の米国中継放送を聴取しては、殆ど夜な夜な僕はそのロンドンの夢を見たのだ。

夢の中で、青空の下に、純白の大理石門（マーブル・アーチ）が煌いた。
短波波長が１０１０キロサイクルだった。真空管のラヂオだ。

それから丁度半世紀経った。

１９９３年の初夏の日に、チャックと一緒にロンドンの町を生まれて始めて歩いた。

歩きながら、ふっとその黒い傘と呪文を思い出した。

僕はもう還暦を過ぎていた。

僕たちの宿は、大理石門（マーブル・アーチ）の傍らにあった。

チャックの生まれ年が１９４３年だった。

★ ★ ★

★　東京の進也から。
朝はやや雲が多かったが、晴れて暑くなってきた。今日は湿度が高い感じがしてあまりしのぎやすくない。気圧配置が似ているからか、モスクワの暑熱がしきりと報道されているが、ロシヤは森林火災も発生している。暑いのにマスクをかけている人が多い。外電では北朝鮮に洪水が発生しているらしい。その前線がもう少し南下すると日本も涼しくなるのだが、まだしばらくは降りてこないようだ。
家にこもって本ばかり読んでいるが、太陽にさらさないと何か不健康な感じだ。時間を見て少し外出してみる。

本をあらかた読んでしまって少し退屈だ。以前に入手した本から探してみる。古本の目録に『カッパのクー』という童話が出ていた。作者はオケリー。訳者が片山広子。何と 6500 円。高い。手が出ない。アイルランド文学の専門家だった片山広子こと松村みね子は君も覚えているだろう。この人の本は古本でも評価が高い。進也、11 時

★　Ｔｈｏｍａｓ．　片山広子の本は今でも僕の机の上にある。あの翻訳は穴があくほど読み返した。Ｙｅａｔｓの序文まで載ってるやつだ。なつかしいね。

それに、チャックの母親がＧａｌｗａｙ付近の生まれだよ。１９９１年に二人で広子が辿ったあたりを旅した。

少年時代のあのころの遣る瀬無かった夢想の一部だ。その夢想は老後の今でも続く。

★★★

Comments

1　■空の神兵

トーマス様

おはようございます。

会社回線が遅く、今は「空の神兵」聞けませんでしたが、後ほど楽しみにします。

いつもトーマス様の写真はきれいです。

この池が、ハイド・パーク公園ですが、曇ってますが、好きな写真です。

これからも愛読します。

再見！

川上龍也 2010-08-11 10:34:27

2　■Re:空の神兵

＞川上龍也さん

ありがとう。

thomas-penfield 2010-08-11 17:16:50

Diary. August9-10. Monday-Tuesday.　日本書紀と三国史紀。

日記。８月９日。

★　かつや君から、コメントがあった。

＞ トーマスさん、本居宣長の話が出たので、付け加えにさせてください。江戸時代までは「古事記」はずっと読まれませんでした。所謂表に出ていじない「禁本」だったのです。天皇の歴史を綴った「日本書紀」が正統であり、その影響で人間的な物語としての「古事記」はまかりならぬと言うことだったのでしょう。平安、鎌倉、室町と古事記

は日の目を見なかったので、本居宣長は最初の古事記研究者でした。

＞やはり都合のよい情報と言うのはあるものですね！

● かつやくんへ。

やっぱりね。歴史記録の正則性確立ってそのような過程があるものですね。

朝鮮史においても、かねがね何故三国史紀以外にもう一つしかないんだろう？と訝っていました。（耄碌して、もう一つの名前を忘れてしまった。）

「日本書紀」以外が邪記だってことになるとはね。そして、江戸時代まで、日の目を見なかったとはね。

（『三国史記』（さんごくしき）は、高麗 17 代仁宗の命を受けて金富軾らが作成した。正史と決めてしまったあと、野史はほぼ全部破棄したらしい。）

日本書紀と三国史紀の名前の類似は偶然ではないと思います。
同じような問題が三国史にも浮上しますから。

新羅、高句麗を含む事柄の叙述にも、正邪の主観性問題は不可避でしたものね。ことに儒教史観内ではね。

指摘してくださって、ありがとう。

仏教の大蔵経経過も似てるようだ。
原典はほとんど残ってない。般若心経のサンスクリット原本は一冊だけ日本正倉院に残っていたと読んだことがある。真偽は知らない。

太平洋戦争終了直後、大連でもあちこちで公文書類焼却の煙が上がっていた。

★ 東京の進也から。 受信： 8月9日。6:56 AM (55 minutes ago)

和本について、基本的な知識を解説して岩波書店の『図書』に連載していた中野三敏という学者が、8 月号でアメリカに残されている和本について記事をかいている。ハーバード大学のイェンチン研究所、さらにボストン美術館などを訪問した話だが、ざっとしか見られなかったことや、自分の年齢からもう十数時間かけて飛行機で訪問することは「到底耐え得ない」と書いていることに感慨を覚えた。年齢はやはり壁になる。ブリンモアでは和本も所蔵していたかしら。

同じ『図書』に孫歌という中国人学者が「北京便り」という連載を書いていて、そこに台湾資本の「富士康工場」

で連続自殺事件が起き、十数人の従業員が死んだことで会社は給料を倍増し、休憩時間も増やした、という。物価の安い国に進出した企業が、賃金をどう決めるか、およその想像はつくが、決してよい待遇ではなく、しかも労働環境もよくないことは、大連の日本人なら多くの反省を込めて思い出すことができる。この筆者は別に告発しているわけではない。最近中国で日本企業の従業員がストライキをして賃金増額を勝ち取っているらしいが、それとも違って散歩という形で意志を示すということが発明されたようだ。デモではない。ただ同じ意志をもっている人が集まって歩くだけ。それでやはりデモと似た効果があるという。夏目漱石の晩年の著書を印刷した人物が大連に工場を建て、一時、満洲日日新聞の発行人になった、という話は、まだ中間報告だが、何だか面白い。満洲日日新聞は後に満鉄の所有になるが、いろいろな人物がかかわっている。以上、今日の読書からの報告。進也、20 時

★　2010 年 8 月 10 日矢口

天気予報では曇りか雨、だったが、晴れて暑くなった。台風の接近で予報が難しくなっているのだろう。
11 日間の夏休みは今日が 6 日目、半分が過ぎた。時間のたつのが早い。

「ちくま」着いたそうだね。関さんの『広島第二県女二年西組』の 6 刷は未だ入手していない。神保町に出ていた日が店の定休だったので行きそこなった。10 時半ころ、玄関の呼び出しホーンが鳴ったので出てみたらものみの塔の女性 2 人づれだった。僕は一応相手の言うことを聞くことにしている。結局は聖書をお読みなさいということで『満足のいく生活　どうすれば実現できますか』というパンフレットを置いていった。この本は 2006 年版だ。ちょっと古いかな、と思ったが、遺伝子工学に言及したり、ダーウイン進化論では説明できないことがあるなど、新しいことにも応答している。でも、聖書の中身はどうしてもイスラエルやキリストなど昔話になってしまう。聖書がすべて、という考えは無理があるね。

きのう書いたメールのなかで、「大連人は搾取について現行犯（とは書かなかったが、意味は同じだ）」としたが僕には実感がある。小学校の 5 年生くらいだったと思うが、何の時間だったか、サラリーマンの給料の話になり、日本人はいくらくらい、中国人は日本人の半分くらい（だったと思う）と先生が言った。そして、なぜ少ないかについて、先生が「中国人はそれで十分暮らしていけるのです」といった。その時、僕ら生徒は皆笑ったのだ。そこには差別意識が働いていた。ものの値段は日本人が買うのと中国人が買うのとで変わりはない。それなのに、半分の収入で中国人が暮らしていけるというのは、それだけ生活の質を落としていることに気付かなかった。遠足で農家のそばを通ると、そこの子供たちはほとんど裸だった。日本人は一等国民、中国人は四等国民、そう思っていた。その意識は今もある。日本に来て研修生として働く中国人が、わずかな賃金しかもらっていないことで問題になっているが、これも同じ発想だ。

★　Ｔｈｏｍａｓから。

僕だって例外じゃないよ。
アメリカ人でございますなんて、涼しい顔する資格なんかないんだ。

たしか中学一年生だった。

旅順駅で、一家が日露戦役跡めぐりに、馬車を一台雇って、一日を過ごした。

お昼になって、東鶏冠山の堡塁あとで、地面に毛布だっかを広げて三重の重箱を広げた。勿論その馬車の御者も一緒にね。

（今になっても恥ずかしいが、僕は御者が加わるのを観て、いやーな顔をした。）

あとで、父からこっぴどく叱られた。

あんなに叱られたことは一生なかった。

戦争が終ってから、朝鮮に戻って悪夢のような２０ヶ月を過ごした最中、ソウルの旧総督府便所でいつものように米国人便所を使ったら、南部訛りで話す中老米人将校から「有色人種」は白人の便所を使うな、あっちを使えと罵られた。良い薬だった。

大連の僕たちは植民社会育ちだったものね。

★

Diary. August11. Wednesday.　アルジェンチナ育ち、希臘系姪の中国系養女。

日記。８月１１日。深更。

ヒューストンに住む、姪、クリスチーナはブエノスアイレス育ち。
母親がアメリカ籍だったから、希臘語、英語、スペイン語を話して育った。
南部米国育ちの夫とのあいだに子供が生まれず、苦労したあげく武漢から養女をやっとこさの思いで貰うことが今春できた。

娘の名前がアレクサンドラ。養女がうまく育っているようだ。写真を送ってくれた。

Dear Uncle Tom,

Here's a new photo of Alexandra. She's adapting well. In the two months between pediatric visits she grew 2 inches. Also, we've noticed a slight change in the way she relates to us. I was telling Eddie the other day that now I feel like a mom and it's because the baby treats me that way. It's hard to explain. She's always been affectionate. But now there's a slight difference.

Hope you're all well.

Love,

Cristina

一族にまた新しい種類が入ってきたわけだ。愉しい。
可愛い子だろう？

これだから、僕たちのアメリカ社会には未来があるんだ。

★　東京の進也から。

グライダーの話、指導教官の黒岩先生、みな遠い過去だ。僕は途中で転校したからグライダーの経験はない。急上昇して尾翼のほうから墜落したのが誰だったか、8 回生だったことは何かの折に話題になる。黒岩さんは 2006 年版の名簿で亡くなったことになっている。この名簿は大連中学校同窓会最後の名簿だが、存命の教師は 2 人しかいない。4 年たった今年、存命かどうか。

金さん、
聖書原理主義については、僕もいくらかは知っていますが、「物見の塔」の信者が配るパンフには、福沢諭吉まで登場して彼が「天は人の上に人をつくらず、人の下に人をつくらず」といったこと引き、だから、福沢は天を信じていた、といっているのは強引すぎます。いずれにせよ 2000 年前の本ですべてを説明できるというのは、日本神話を最近読んだ経験からも無理だと思います。

今年の 8 月 15 日に内閣の閣僚が全部靖国参拝をしないと決まって気分がよかった。去年までは自民党の内閣だったから、変わるとすれば今年だった。日韓併合 100 年の首相談話も必要だった。切れ切れの感想でごめん。進也、11 時 15 分

★ 紐育の金さんから。

日本政府(民主党）が 日韓合併 １００年に際して ＜反省文＞を 発表したと 韓国政府は 宣伝しております。 一方 日本政府は ”談話の意義について「日韓を軸に米国も加えた３か国で地域の安定が形成されることは、極めて大きな意味がある」と述べ、核やミサイル、拉致問題を抱える北朝鮮や軍備増強を進める中国を念頭に、東アジア地域の平和と安定には日米韓３か国の連携強化が必要不可欠との認識を示した：”としております。

いまさら 日本に ＜反省＞をしてもらう 必要もない上 反省したとしても 死んだ子供が 生き返ることでもないし 反省文というのは 韓国政府の マスターベイションにしかすぎません。

本音は 談話を 機会に 米国との 同盟の 下位にある ”日韓を前線に 押し立てて 米国の 軍事統制のもとで ３国で 地域の覇権を 形成すること”にあります。

すなわち 東アジアの 新冷戦体制の 構築であり 日韓米による 中国包囲網の 地ならしであると 思います。

韓国の リミョンバクが 小泉の 二の舞をしております。程度の 低い 泥鰌が 水を かき廻しております。日本は 最近 元気が 抜けて 方向感覚を 失っているような 気がします。虎の 威力を 借りた 狐（キツネ）が 気違いみたいに 跳び回っており その キツネの 尻馬に 虎も ウサギも 引きまわされております。 中国

は　かんかんに　怒っており　頭に　来ております。 ご用心。

★　Ｔｈｏｍａｓ．金さん、投稿ありがとう。

指摘される地政学条件はこの一世紀半に亘って変わってないと思います。
お説の通りでしょうよ。

Diary. August12. Thursday.　来栖三郎大使の息子。

真珠湾攻撃は米国市民にとっては大打撃だったし、不意打ちだった。
通信不備が齎した責任は勿論日本側にある。

あの結果として、来栖大使の評判は今でも悪い。

だが、あのころの彼の職務責任を考えると、気の毒だったと思う。
あれほど、こちらに親友や親類をもち、戦争に反対していたのに。

意図的に「騙まし討ち」結果をもたらしたのは彼ではなかった。

それに、彼は三国同盟に反対だったし、日米関係調整だって彼なりの努力はしていた。不本意であったことは間違いない。

だが、来栖大使夫人が紐育生まれのえ英国系米国市民であったことは周知の事実ではないし、彼女が外交官夫人として活躍したことも知らない人が多い。大使は愛妻家でもあった。

彼の息子、良が日本軍将校だったことあまり知られていない。

良が暁星中学を出たこと,また陸軍将校だったことは、戦争中僕は知っていた。

暁星から転校してきた大連中学七回生の江間惟道君と僕は親友だった。もう故人になってしまったが。

暁星はフランスの修道会が経営する中学校で、江間君はフランス語が操れた。星が浦公園のど真ん中にある広壮な洋館に住んでいたが、満鉄に関係があった父はシンガポール方面に出張中飛行機が撃墜されて亡くなった。

記憶の間違いかもしれないが、フィリピン方面の陸軍指揮官は朝鮮族だった。
そして、あのころ混血児たちの行方に僕のような「あのころ奇妙な」人間は敏感だったから。

加賀乙彦が良をモデルにして書いた小説、「碇のない船」が"Ｒｉｄｉｎｇ　ｔｈｅ　Ｅａｓｔ　Ｗｉｎｄ"（東風に乗って）として、リービ・ヒデオが英語に翻訳したことを昨日見付けた。 即座にアマゾンに注文した。

★

昨日、インタネットで来栖大使一家のその後辿った生活を知った。

僕のタロウが特攻隊隊員として死ぬ３ヶ月前に、２６歳だった来栖良は死んだ。

アリスさんは勿論日本市民だった。そして、亡くなるまで、夫の国への忠誠は変えなかった。そして後日、彼女はカトリック教徒として、日本市民として死んだ。

公表は戦死だった。いちはやく、カリフォルニアの新聞はそのことを１９４５年３月に報じている。

来栖大使はワシントン以後、日本に戻って、軽井沢にひっこんだとも聞いた。
良の妹二人は戦争後、アメリカ市民と結婚してアメリカに来ているようだ。

★　東京の進也から。　受信：８月１２日。2:59 AM (6 hours ago)

午前中に電話をもらったね。今日は病院に行く日で 8 時半には家を出ていた。台風が接近して、天気もすっかり曇った。まだ雨は降っていない。病院では半年ごとの検査で膀胱を内視鏡で診てもらった。とくに異常はなかった。1 週間ぶりの外出だったので神保町に行き、注文してあった『広島第二県女二年西組』を受け取ってきた。ちょうど昼だったので軽食の昼を済ませたが、そこでこの本を読んで、途中で涙が止まらなくなってしまった。異常な迫力のある本だ。

君のお父さんは立派な人だ。馬車の御者を食事の輪に入れたとのこと、君が嫌な顔をしたのはよくわかる。たぶん僕だってそうした。僕の父は中国語をしゃべり、中国を理解していたようだが、典型的な植民地主義者で中国人を蔑視していた。ヤンチョの車夫を値切って、これでは少ないと手を出す車夫の手を振り払ったのを僕は目撃している。そういうことを日常的に目にしていた僕たちは不幸だった。日本人の家屋を回って洗濯をさせて、といってきた中国人女性がいたね。小さないすだけを持ってくる。たいてい纏足をした中年の女だった。それに対して母も冷たかった。寒い風呂場での洗濯、冷たい水、それなのに、よく落ちていないと文句をいう。わずかな賃金で彼女たちは働いたのだ。要するに、僕らはこうしたことを見逃した。差別主義者だ。国民として謝罪する機会があったら謝りたい。進也、16 時

Diary .August13. Friday.

日記。８月１３日。金曜日。

しのぎやすい８３度の一日。時々泣き出しそうだったにしろ、一応晴れ続けてくれた一日だった。チャックは一日中家中と庭の清掃と手入れに熱中。僕は一日中閉じこもって読書。

夕食はステーキ。僕たちのＤｉｎｎｅｒ主食だけは、一緒に午後３時半にとることに定着した。（僕は医師の

命令で一日総計六回食べる。） 娘たちがクリスマスに贈ってくれた冷凍ステーキ肉がまだ四食分も残っている。

★　東京の進也から。

昨日のこと、書店で『環』42 号を見つけ、発売されていることを知った。僕は予約者なのに来ないから変だなと思い、藤原書店に電話したら僕の購読料が切れているという。たしか支払ったはずだが、と領収書やらメモを探したが、支払った様子がない。僕の手違いらしい。藤原書店にまた電話して送ってほしいと頼んだ。そうしたら今朝の 9 時にはもう届いた。早業だ。

台風のあとで湿度が高く、昨夜も寝苦しかった。
８月は戦争のことが多く出てくる。昨日は「玉砕」についてのテレビ特集があった。この言葉が使われたのはアッツ島の戦争だった。全滅のことをこの言葉で美化した。大本営では戦局が劣勢になって発表に困ったらしい。国民の戦意を高揚してさらに動員するにはどうしたらよいか、そこで知恵を絞った。映像で見て思い出したが、アッツ島戦死者慰霊祭があり、二千数百人分の白木の箱を兵士が胸に抱き、行進した。もちろん遺骨などあるわけないから箱は何が入っていたかわからない。しかしこの目くらましに僕ら国民はすっかり騙された。その後、キスカ島から守備兵を撤退させると、今度は大成功と宣伝した。撤退が大成功なら全滅は大失敗だろう。そのことに、かすかな疑問は感じたが、すぐ忘れてしまった。

今日は旧盆の入り。後で花を買いに行って仏壇をきれいにする。明日の午前中にお寺の和尚さんが読経に来る。しきたりは守らなくては。

養子の子供、気の強そうな表情をしている。日本の新聞は相変わらず 100 歳以上の高齢者の行方不明者のことを書いている。40 年も 50 年も前に死んだらしいのに調べていないのだから行政の怠慢だと思うよ。僕は 70 歳以上の高齢者は全部調べないといけないと思う。日本の高齢者が多いのはいい加減な統計によるものだ。進也、

★　Ｔｈｏｍａｓ．

日本もどんどん変わってきているわけだね。
こちらの二世の英語にケイロウって単語がまだ残るけどさ。
法的に、アメリカの子供には親の扶養義務がない。そこまで、日本社会は割り切るようになるかしらね。

★　新潟の襄から。　　８月１３日（金曜日）

とむさん

お墓参りに行ってきました。
台風は通過しましたが安定しないお天気で、時折雨が降りました。

気温はさほど高くなりませんでしたが、何とも蒸し暑い一日でした。
息子達が帰ってきていないので、揃ったらまた出かけようと思います。
顔を出すのが、一番の親孝行ですからね。

金さんの文章、それに対するとむさんの言葉、加えて矢口さんの通信文、
今回は三者三様の趣です。
並べるだけのとむさん流儀は、ちょっと狡いけど最善の方法ですよね。

金さんの言う通り、中国が問題です。
今や中国こそが大国ですね。
でも、いまだに ODA を要求している大国ってのも、納得できません。

★

Diary. August14. Saturday.

日記。8月１３－１４日。

★　東京の進也から。

予報では晴れて暑くなるといっていたが、雲が厚く、蒸し暑いが気温は普通並みだ。
11 時過ぎにお寺の和尚さんが来て、お経をあげてくれた。お盆の行事が終わった。

ちょっと不思議だが、この 3 日間、全然メールが来ない。40 通は来ていた迷惑メールもひとつもない。発信は支障がないからいいのだろう、と思うことにしている。
明日 1 日で休暇が終わる。月曜から図書新聞だ。休暇中の読書から書評を書かなくてはならない。というわけで、今ちょっと呆然としている。進也、12 時半

★　Ｔｈｏｍａｓ：

感心だよ、君は。ちゃんと伝統を護ってるんだから。

あの仏壇ね、チャックの部屋を覚えてるだろう？あそこの本棚に、観音開きの棚があるので、そこに１９７５年に君と浅草に行って買った参具足（？）の仏具を使って僕たち二人の両親たちの写真を飾った。

（君と一緒に浅草の仏具店を訪れたあの夕方を覚えているかい？何もしらない僕にあの店のおばあさんが懇切に教えてくれたね。）

あの時、よほど仏壇一つ買って戻りたかったけどさまさかね。だから、三具足だけで我慢した。

ずっとその 15 年前の１９６０年ごろに、まだミシガン大学に居た。

時折、英語生活の息抜きに、シカゴに家内と生まれた三歳だったアナスタシアを連れて行ってはシェラトン・ホテルに泊まった。一泊３０ドルだった。（嘘みたいだね。）勿論、一番安価な部屋をとったのだけどさ。

北クラーク街の日本街に戸栗貿易商会というきちんとしたよろず屋店があった。日米戦争直後だったから、一世がやってた店が米国東部のあちこちに残ってたんだ。（東部の日本系は強制収用所にぶちこまれなかった。）

戸栗の御爺さんと御婆さんとはとても親しくなった。戸栗さん夫婦の娘さんはＴｏｋｙｏ　Ｒｏｓｅとして反逆罪に問われた人だよ。そのころ、まだ連邦監獄だかにぶち込まれていたと思う。勿論僕は黙っていて訊かなかった。ポルトガル系の苗字だった。

あのころマリかとアナスタシアの三人でシカゴに行っては一泊か二泊して北クラーク街の日本町を楽しんだものだった。それに物価が安かったから、素寒貧の僕たち一家だって泊まりに行けた。一世が経営する日本食堂がたしか三軒あった。

単身で紐育のＹＭＣＡによく泊まったけどね、宿賃が一晩２ドルだった。そして、あのころ旅行するのに、汽車賃が苦にならなかった。

三千ドルで、総てが整った茶室一軒が買えたご時勢だった。
郊外の庭、３寝室、食堂、居間つきの家一軒（日本語で３ＤＬＫ？）が８千から１万２千ドルで買えた。勿論、大学暮らしの僕なんか考えもできなかったが。

★今米国時間で土曜日早暁の午前４時。
眼が覚めて、ブログの読了印リストを調べたら下記の常連さんたちが署名していた。日本の皆さんに心から感謝する。ありがたいことだ。アメリカで６０年後に、日本にこんなにブログを通じて友達をもてるなんて考えもしなかった。

このリスト以外にも読者は勿論いられる。皆さん、ありがとう。（以下は今日のリストだけから。）　とても、感謝しています。洩れた名前がありましたら、ごめんなさい。
o だいさん
勇一三〇二さん
子ツバメさん
ジャッジアさん
kiku ママ♪さん
japanese-ful さん
Hiro さん
Papageno さん
川上龍也さん

Diary. August14-15. Saturday-Sunday.

日記。終戦記念日。

★カツヤ君から。

今日もコメントさせてください！

トーマスさん、ご連絡できずにすいませんでした。来週は電話でお話したいと思います。

ところで、私は以前「栗栖三郎」さん、アリスさん、良さんの事を、加賀乙彦さんの「錨のない船」を１０年以上前に読んでいろいろ調べました。栗栖さんのお墓は東京の青山墓地にあります。その墓地は本当にひっそりしていました。大使までやったお方のお墓とは思えないくらいでした。

墓石には、「ヘロドトス」の言葉が書かれていました。「平和の時には、息子が父親が葬り、戦争の時は、父親が息子を葬る」と。栗栖さんの場合には、まさに、「逆縁」でした。

明日は日本では、終戦記念日です。今私は「硫黄島」の戦いで散った栗林忠道中将の本を読んでいます。彼も栗栖さんと同じくアメリカに滞在した経験から、アメリカの良さ、国力を全うに分析していたので、アメリカとの戦争には反対だったようです。ただ彼が軍人として、自分が出来る最大限の事を「アメリカ」そして「大本営」に知らせたかったのではないかと思います。

今平和を甘受できるのは、彼のような方がいたからだと思ってしまいます。

★　新潟の襄から。　　８月１４日（土曜日）

とむさん

早朝、起きるにはまだ早い時刻でしたが目を覚ましました。
外は、音を立てて雨が降っていました。
予報通り、雨の一日。と思ったら、何となく雨が止んで、
湿っぽい一日となりました。

来栖良の写真は本当にこれっきりですが、完璧に母親似だったんですね。
こりゃ虐められたでしょう。容易に想像がつきます。
とむさんが虐められたのも同じでしょうが、彼も物心ついてからずっと虐められ通し
だったに違いありません。
私たちの世代でも、異質なものを排除する、排斥する風土は色濃く残っています。

そしてそれを偏狭な日本という国の後進性のように感じてもきました。
でもねえ、日系人を強制収容所に入れたアメリカだって、ひどいですよね。

矢口さんの通信には、正直心を打たれました。
矢口さんは、何かと物議を醸している首相談話に対しても肯定的に受け止め、
一貫していらっしゃる。

私が幼い頃、父が時折、メディアに登場する中国人や朝鮮人に対して
差別的な言葉を発することがあり、私はそれをよく覚えています。
覚えているのは、しかし、父の差別的な言葉よりも、そうした父の言葉を露骨に嫌がった
母の態度の方です。
「そんなことを言わないでください」と、強く父をたしなめるのでした。
それは、子供の前だったからかも知れません。

明日は息子２号も帰ってくるそうなので、一緒に母の所に顔を出そうと思います。

譲介

★　Ｔｈｏｍａｓ：

あの来栖良の記事ね、皆さんどう反応するだろうかって、恐々書いたんだけど、日記に書いてよかった。そして、世の中も変わったもんだと思った。

そう、僕も良のように、苛められた。ことに、英語を話す、話せたってんでね。

近頃、難聴が悪化してね、ＴＶ視聴してるとまるで朝鮮半島南部に大連から逃げてきて麗水に上陸した時の英語状態に戻ってるみたいな気がした。と言うのは、英語を話せたにしろ、アメリカ英語会話にそんなに慣れてなかったでしょう？早口の兵士の言葉がよく掴めなかった。

おやおや、耄碌してくると、英語が消えちゃうんだな、と気が滅入りました。
今朝ね、マリかが買ってくれた両耳補聴器を使って視聴したら、生き返ったように耳に英語が戻ったまま飛び込んできた。

ほっとした。でも、だいぶ酷い難聴ね。

Diary. August15. Sunday.　終戦記念日。

日記。８月１５日。日曜日。

午後雨が降った。
８月１５日なので、チャックと近所のＴｉｆｆｉｎ食堂でインド食をとった。

鶏肉コルマ。Ｃｈｉｃｋｅｎ　ｋｏｒｍａ.

アルー・ゴビ　Ａｌｏｏ　Ｇｏｂｈｉ.

カシミール風のＬａｍｂ　Ｒｏｇａｎｊｏｓｈ．羊肉ロガン・ジョシ。

チャックの好物である、ｶﾘﾌﾗﾜｰコルマ、鶏肉コルマ、僕の好きな羊肉ﾛｶﾞﾝ･ｼﾞｮｼの三皿。半分だけ二人で平らげ、残りは包んで貰って持ち帰った。二人ともこのごろは食べ過ぎないようにしてるから、二食分はある。
それから。インド料理書を調べたら作り方が全部記載されていた。

★　東京の進也から。

昨日、君からニューヨークにイスラムのモスクが建つことについて、オバマ大統領の演説があったと聞いた。信仰の自由はアメリカ国民の平等の権利だとする演説、国民の 68%が反対する中での憲法の精神を強調した演説は、僕の読んでいる毎日新聞では海外ニュース面の肩の位置、つまり二番手に置かれていた。おそらく、アメリカの国内ニュースだからというのだろう。記事は正確だったと思う。

ところで、昨日の夜、NHKテレビで、日本人と韓国人の多数を集めて討論会があった。「日本の、これから」というタイトルなのだが、隣国ながらさまざまな食い違いが出てきて、全部見たわけではないが面白かった。問題は歴史認識の食い違いで、韓国の人の感情では日本の総理がいくら謝っても心がこもっていないからだめだ、という。ドイツのブラント首相はポーランドに行き、ユダヤ人の記念碑にひざまずいた、といっていた。日本の政治家は首相が謝罪しても閣僚のなかにそれを否定する人物がいて一貫しないという。

そういえば、大日本帝国時代は日本人も朝鮮人も日本国民としてともにたたかった戦友じゃないか、というちょっとトンチンカンなことを言った人物がいて、その時、崔洋一という映画監督が、そういういい加減な認識では歴史を論じる資格がない、とぴしゃりとやっつけた。しかし、はざまで苦しむ人もいる。在日 3 世と名乗る女性が、韓国に留学して学んだが、歴史に関して日本で学習した内容と大きく食い違うのでひどくたしなめられた、といい、その認識の違いに今も苦しんでいるといっていたのが心に残った。

よく考えてみると、韓国人のいう日本がちゃんと謝っていないというのは感情として正確ではないかと思う。日本人

には表面を取り繕うという行き方がある。文面はいかに整っていても心がこもっていないというのは言い当てていると思う。日中国交回復の時、田中角栄が「中国にたいして大変迷惑をかけた」といい、その文言で大分もめたという。このへんはどう考えても謝ったという印象はない。でも日本側はこの表現で押し通したらしい。昨日の討論での韓国人の受け取り方も、その辺のところを衝いている。

気温が上がりつつある。明日も暑いらしい。進也、11 時

★　Ｔｈｏｍａｓから。

このぎくしゃくした「認識の相違」ね。
気をながく持つことだろうよ。変わるのにあとだいぶかかるだろうさ。
問題は、アヤマレ・アヤマッタ問答だけで、なんら意欲的で建設的な行動が、どちらにもないことだ。

日本列島と朝鮮半島だけじゃない、欧州各所だって同じこと。
白人諸民族が雑居するこの社会のなかで６０年生きて、そう思う。
このような、民族間問題は随所にある、そしてなんら解決してない場合が殆どだ。

八十歳爺さんの朝鮮族老人の愚痴さ。

だが、大連中学の君たちと僕は、こうして”国境”を越えた友情を７０年保持してきたってことだ。
そして、少年時代に君と僕が一緒に過ごした月数はたった３ヶ月だった。

このことだけは、僕は誇りに思う。７０年をね。

★　新潟の襄から。

（Ｔｈｏｍａｓ註：　襄に電話で子供の時よく仲間で使った英語隠語ＰＫを教えた。その返事。）

とむさん

「ＰＫ」を調べてみました。
「Pastors Kids 」
「Preacher's Kid」
この両方が紹介されていました。
どちらも、「牧師の子供」「伝道者の子供」というように
訳されています。
さすがに「神父の子供」ということはないですね。
「missionary's kids ＝ＭＫ」

というのもありました。

「ＰＫ　牧師の子供」で検索すると、たくさんのページがヒットします。
そのほとんどが、牧師の子供の苦労が綴られているような印象です。

実はこんな「アルファベットによる略号」というのが、ちょっと前の日本では
大いに流行ったことがあったんです。
例えば代表的な例として「ＫＹ」
「あいつ、ＫＹね。」のように用います。
「ＫＹ」＝　Kuuki　ga　Yomenai（空気が読めない）
　　＝その場の空気が読めない鈍感なヤツ

渋谷辺りの女子中学生や女子高生が使い始めたとされています。
他にもたくさんありますよ。バカバカしいけど。
ＡＭ　　アホ　丸出し
ＤＢ　　童貞　ボーイ
ＧＪ　　よくやった（Good Job）
ＴＫ　　とんだ　勘違い
ＹＭ　　ヤル気　マンマン
・・・・・・・・・・こんな具合に日本語のローマ字表記の頭文字を組み合わせて、
数限りなく出来上がります。

お遊び言葉。
仲間内の共通言語として、仲間意識を高める道具に使っていたとされています。

矢口さん、きっとご存知ですよ。

★★★

Comments

1　■終戦記念日

トーマス様

おはようございます。

日本では、参拝するしないで世間は騒いでましたが、トーマス様には、一生忘れない日の事と想像します。

今年の大連は、晴天日より梅雨空日が多いんです。完全に異常気象です。今朝も梅雨空です。

晴れれば乾燥しますが、梅雨空日は、湿気り快適でありません。

いつまでも元気にブログ公開をお願いします。

毎日、楽しみにしています。

再見

川上龍也 2010-08-18 06:39:35

2 ■Re:終戦記念日

＞川上龍也さん

８月１５日を１９４５年に旅順高校寄宿舎で迎えました。こんがらがった、複雑な思い出です。

平和が来て、大連の貴方から今年２０１０年にアメリカでブログのコメントを戴けるなど、夢想にもしませんでした。

楓林街に住んでた諸民族の友人たちはもう全世界に離散して８０歳を迎えてます。

大連在住の貴君は僕にとって重要な情報源です。イスラエル在住の友人にも毎度知らせています。（彼はコンピュータがだめ。８４歳ですものね。）入手した絵葉書を送ったら、たまげてました。

またね。コメントありがとう。　　Ｔｈｏｍａｓ

thomas-penfield 2010-08-18 13:09:14

Diary. August16-17. Monday-Tuesday.

毎度のことでややっこしいが、現在は僕にとっては日曜日の午後６時。
日本の皆さんにとっては明日、１８日、月曜日の午前７時。そして、この記事の掲載予定日は僕にとって明後日の午前零時、８月１９日、火曜日。

こんがること夥しい。

自動車前窓のワイパーが故障して動かなくなった。
それで、午前９時にガラージに持っていったら、ワイパーだけじゃないあちこちに問題があるそうで、午後全部を使って修理してくれ、その間貸し自動車をくれて、午後５時に受け取ることに決まった。
修理代が１５００ドル。ほぼ１５万円。
懐が痛いけど、シカタガネエス。

★東京の進也から。

東北北部から朝鮮半島にかけて前線が横たわっている。この前線の北側が秋の高気圧、南は夏だ。しかしこの前線がちっとも動かない。今日も厳しい暑さ、帰宅したのは 4 時半だったが、室温が 34 度、クーラーを入れたけれど、まだ 30 度ある。容易には下がらない。

升本君から電話があり、原稿が書けたから送るといってきた。うれしい。彼はこんな原稿は久しく書いたことがない、といっていた。ありがたいこと。

明日は聖徳小学校同窓会の会議が午後からある。それに出席する。進也、18 時

★　Ｔｈｏｍａｓ．

桝本君の記事ね、期待してるよ。
気の毒に彼は戦後一家が抑留され、満州で苦労したものだ。
悪夢な戦争だった。

★新潟の襄から。

とむさん

家内の新しい PC が届き、SetUp をして貰いました。
昔はみんな自分でやったんですが、インターネットの接続や
メールの設定を、みんな頼みました。面倒くさいんですもの。
ラップトップ PC は運ぶのも簡単なので、今回は設定料はサービス。
（Ｔｈｏｍａｓというのは無料。アメリカ語では　ｆｒｅｅ。）

今日は親子４人で、お墓参りでした。
義父が亡くなったので、安心して家を留守にできます。
お墓を参ることがどれほどの意味を持つのか、子どもたちにとっては
大いに疑問のあるところなのでしょうが、私たちが揃って顔を出すと、
母が喜ぶことだけは確かです。

親を扶養する義務は、あります。
当の親が面倒を見てもらえるものと思い込み、世間もそれが当然と考えている以上は、義務はあるのです。

法的にどうなのかは分かりませんが、親の扶養を投げ出すことはできません。

とても蒸し暑い一日でした。
スッキリ晴れないからですね。
明日も、雨が降るかも知れません。
私の夏期休暇は、まだ続きます。

★　Ｔｈｏｍａｓ：

僕のＷｉｎｄｏｗＸｐを使う個人組み立てＣｏｍｐｕｔｅｒも使用年数１０年を越したので買い換える。
パナソニックかＨｅｄｗｌｅｔｔ　Ｐａｃｋａｒｄのデスク・トップにするつもり。
まだ決めてない。

★　新潟の襄から。
８月１６日（月曜日）

とむさん

夏期休暇がまだ残っているので、のんびりしています。
油断していると言ってもいいですね。
無為に過ごしてしまった一日が、如何にも勿体ない。
でも、それができる日もそれほどたくさんあるわけではないので
たまには良いことにします。

家内の PC が新しくなりました。
メモリーなんて、最初から４ＧＢも入っている！
ＨＤの容量は十分すぎるほどです。
で、すっかり動きの悪くなっている古いＰＣをどうするかという問題ですが、
中古ＰＣＴＯＰして１０００円で引き取って貰うという手もあったのですが、
リカバリーしたらまた使い物になるかも知れないと思って、そのまま置いておくことにしました。
どんな作業も、とにかく時間が掛かってしまうＰＣなので、今日は腰を据えて立ち向かいました。
まず、作成した文書などのデータを取り出して別に保存する。
その後、リカバリーの作業です。
何時間もかかりましたが、何とか初めの状態に戻すことができたようです。
もうインターネットには接続しないので、その設定は扶養です。
文書を作成するためのソフトを入れて、予備機として使います。
「たまには、埃くらい払えよな！」なんて言いながら筐体を磨いたら、
新品のようになりました。

息子達が帰ってきているので、久しぶりに賑やかな家です。
久しぶりに会う友人達と、楽しんでもいるようです。

明日はとむさんの病院体操のように、私もジムで汗を流そうと思っています。

★　Ｔｈｏｍａｓ：

今午前零時４０分。
このＢｌｏｇは正午に封切掲載になる。
新潟の襄が休暇在宅なので、夕方電話してしゃべれた。
８０歳を過ぎると、どんどん孤立化する傾向になる。その点、僕は老いてもＣｏｍｐｕｇｔｅｒが操れるのでありがたい。

議会で国籍について、生地定義を廃止するなり「改良」して、血統主義にもどらそうとする傾向が出てきている。良くない。

血統主義による国籍定義がもたらす悲惨さを僕は東洋で嫌になるほど見つめて育った。
★

Diary. August18. Wednesday.　大連の旧友一家。

日記。８月１８日。

★東京の進也から。

毎日暑くて、何だか頭が働かない。夜も途中で冷房を入れなおさないと朝までもたない。こんなことを言っても始まらないけれど。

升本君から原稿が来た。「少し昔の話」というタイトル。大連から北朝鮮を通ってハルビンに行き、そこと長春に 6 年間いたという。1953 年に帰国、父親は中国で亡くなり、兄、弟、それに母親の一家で、お兄さんは結核で療養所に入り、働き手は彼だけだったらしい。ところが彼は非常に遠慮深く、自分のことは語りたがらない。周恩来の『水を飲む人は井戸を掘った人のことを忘れない』をそのままに、自分も中国に残り、そのことで井戸を掘った人の仲間だ、と言いたいらしい。

今日は西村君から電話があり、あかしや会の斎藤進、宝川時夫が亡くなったという。僕からは白浜英美君の死去を知らせた。何だかまとまりのないメールになってしまった。進也、18 時

★　新潟の襄から。受信: ８月１８日（水曜日）

とむさん

お電話有り難うございました。
夏期休暇中ですから、家に居る時間がたっぷりあります。
運良く在宅していて、お話しができて嬉しかったです。

朝からよく晴れて気温もぐんぐん上がりました。
あれこれ洗濯をして干しましたが、どうもカラッとしません。
暑いのに乾かない　という感じでした。
湿度が高いせいでしょうか。

「謝罪が不十分だ」と感じている人が、「十分だ」と感じることなど、

未来永劫無さそうです。
お互い言い合って、納得も承服もできずに恨みを抱いたままの関係を続け、
いつかお双方共に痛い目に遭って目が覚めるかも知れません。

★　Ｔｈｏｍａｓ：

ＦＯＸ連中は、主張の強調焦点を：　①　イスラム・モスクの紐育市内建設反対、②　（ヒスパニック）不合法移民の全面的追放、入国拒絶にあてて喋りまくる。もう一つの焦点は　③国会議員の不法行為、収賄行為だ。（おもに黒人）。

一世紀前のぶり返しみたい。

★★★

Comments

1　■道のり

トーマス様

おはようございます。

私は、1952 年生まれです。

2002 年年末に極寒ハルピンを訪れましたが、飛行機でひと飛びです。

大連から北朝鮮を通ってハルビンに行き、そこと長春に 6 年間いたという・・・

当時であれば、移動手段は想像できぬ思いですが、壮絶なドラマが脳裏に浮かびます。

耐寒。食事。医療。さぞかし辛かった事等。

今の自分の幸せを大事にします。

川上龍也　2010-08-19　06:40:54

Diary. August18. Wednesday.

日記。８月１７日。

★　東京の進也から。

朝、目が覚めたら 6 時半、起きだして雨戸を繰ったら強い日差しが飛び込んできた。気温はもう 29 度、という間に　30　度になってしまったので冷房を入れた。年金収入が少なくて電気が止められ、冷房はおろか、夜は懐中電灯で暮らしていたという 76 歳の老人が衰弱死した。室温が 35 度だったそうな。これでは蒸し焼きだよ。

今朝の毎日新聞の海外ニュース欄に、小さい記事だがニューハンプシャー州とポーツマス市が、日本とロシアのポーツマス条約の調印された９月５日を記念日にする条例ができ、記念行事が開催されると出ていた。ポーツマス

条約はよく知っていても、ポーツマス市のことなどほとんど知らない。恩知らずだね。ボストンの駐在する日本の領事は辻優という。談話が出ていた。

襄さんが加賀乙彦の『碇のない船』のことを書かれていたが、つい先日鶴見和子さんの山百合忌に加賀さんは出席していた。彼は筆力の旺盛な人で自伝的な長編小説は何巻にもなる。昼から出かける。進也、10 時 10 分

★ Ｔｈｏｍａｓ．

ポーツマスは３５年頃に一度だけ訪れたことがある。ちっぽけな、あまり取り柄のない町だった。ただし、日露戦争調停の歴史を看板に、あちこちに「史跡」が存在していた。Ｔ．ロースヴェルトの礼賛もたいしたものだった。

あの町を散歩しながら、あの東鶏冠山の堡塁の景色が瞼に浮かんだ。累々と積み上げられた黒服の日本兵士の死骸もね。レルナー君の父親はオデッサ生まれでのユダヤ族青年で、徴兵されて旅順に籠城して生き延びた。

一方、朝鮮王国政府は日露戦争五年後に崩壊した。
だが、１８９０年台、日清戦争後、王妃を惨殺されて露西亜領事館に高宗が避難していたころだ、政府の国内改革は大分進捗していたらしい。露西亜商人（スイス生まれで、浦塩を本拠にしていた露西亜籍”大陸浪人”だったが）が鴨緑江上流森林の採伐権を高宗から貰ったのが１８９６年ごろだった。日露戦争勃発の一因にもなった。あのころ朝鮮半島をめぐる列国暗闘は今にだいぶ似てたんだね。

その商人の孫だったかが、僕たち世代の大連に住んでたのを知ってる？
この浦塩ｸﾞﾙｰﾌﾟと関連がある避暑地が共産革命後北朝鮮に亡命して、日本政府庇護下に清津近辺に「避暑地」を経営していた。レルナー君の父親が夏家河子に持ってたホテルみたいなやつだ。

１０５年後に、今度は北朝鮮では再び腐敗、暴力と弾圧が続く。

Diary. August19-20. Thu-Fri.　教会図書室奉仕。マイクル神父の誕生日。

日記。8月１９－２０日。

★ 東京の進也から：

暑い日に汗だくになって動き回ると体力を消耗する。昨日はさすがにくたびれて、早めに寝たが、少しは過ごしやすかったのか朝 7 時半まで眠った。予報の雨は降っていないし、東の風も吹かないが、曇っているので気温の上がり方が鈍い。こんなことに救いを求めるのもやりきれないが、なにはともあれ、今日は休息する。

僕は防衛省の組織がどうなっているか関心はないが、首相が制服組のお偉方に会うという記事が出ていたので

注目した。昔の軍部は、参謀本部、海軍軍令部の、それぞれ総長が最高司令官だが、今の自衛隊は陸、海、空の三つに、もう一つ統合という組織にそれぞれ幕僚長という責任者がいる。例の田母神氏が航空幕僚長だった。軍という呼称は慎重に避けている。陸上、海上、航空、だ。

そのことは別に最近日本ではヘリコプターの墜落事故が多い。遭難者の救助に向かったのが操縦不能になったあり、昨日は瀬戸内海で海上に張られた電線に接触して墜落した。

そういえば、歴史に関する記事で、日本の軍隊を日本軍と記述するが、これが何かイメージしにくい。僕らはこういう呼び方になじんでいないからか。僕らはもっぱら皇軍といっていたから。進也、11 時

★　Ｔｈｏｍａｓから。

●　現在のアメリカにまま横行している、オバマ叩きに気が滅入る。

有色人種の大統領へのなまの反応なんだろうが、どうなるのだろうね。
国民の１８％ちかくが彼がイスラム教徒だと信じきってるそうだ。
まるで、中世期の頭だ。

だが真正面から「正義のナタ」を振り回すかわりに、赤ん坊気質をあやして、妥協策にたどり着くのが賢明だと僕は思い出している。

●　明日、８月２１日はマイクル神父の誕生日。彼は６８歳になる。
チャックがお御堂の責任を持つようになってから、この神父と仲良くなり、僕が加わって、僕たちは三羽烏になってしまった。

お賽銭箱宗教に飽き飽きしてアメリカ社会で老いた僕にとって、彼との親友関係はとてもありがたい。考えたこと、思ったことを素直に言うことができて、彼の意見が聞けるから。彼は明朝時代のマテオ・リッチに深い興味を持っている。

僕はシリアク語の基督教原典とネストリウスの影響を受けた東方教会の対東進展について読んでいる。

だから、読み続けながら、お互いに助け合いできる。ひさしぶりに、大学時代の環境に戻ったような気がするのだ。
★

明日、８月２１日は親友マイクル神父の６８歳誕生日。チャックより一つ年上だ。

それで、都心のチョップス食堂で昼食を一緒にした。天上が見上げるほど高い。

メニューにコーベ牛肉。神妙に英文でワギューと書いてあったので、注文したあとで、考えてみたらワギューとは和牛のことだった。もう英語化してしまった単語なんだね。笑。

教会駐車場に車が置いてあったので、三人で十分ばかり歩いて戻った。

このあたりは、昔からの繁華中心区域。駐車してある自転車の群れにご注意。

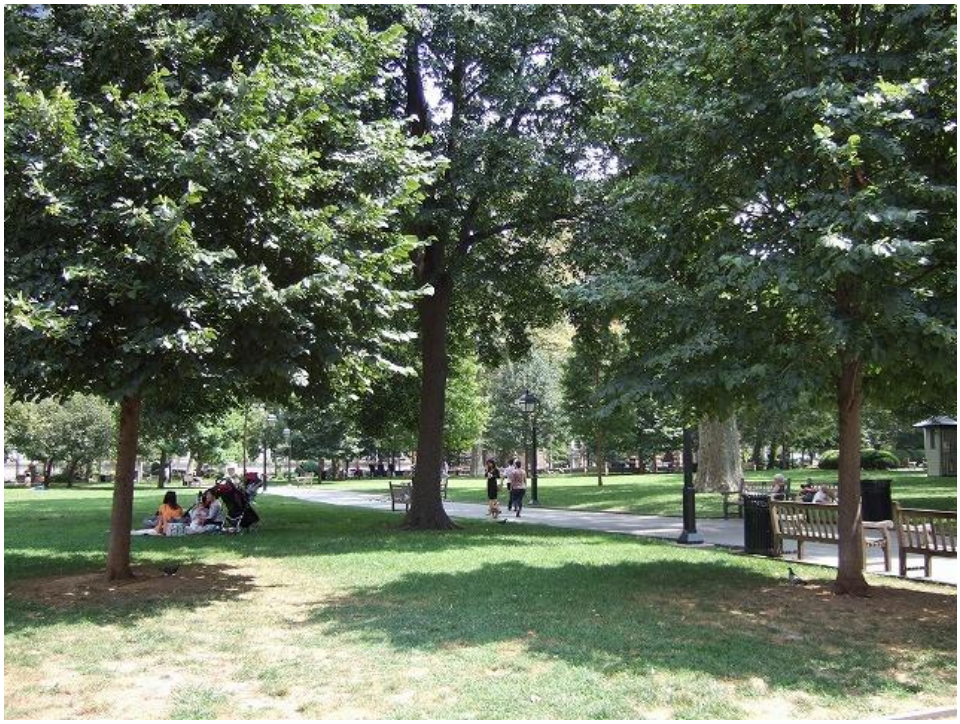
上掲写真の左側に見受けられる大きな建物が有名なカーティス会社本部。
日本からも留学生を受け入れている音楽大学の設立者。
この大学は世界的に有名で、たしか授業料無料。

ホプキンソン・ハウスのコンドミニウムとマイクル神父。

４０年前だったら、僕たちでもこのコンドに一軒買って這入れた。

一軒、５万ドル位だった。今はもう手に入らない。

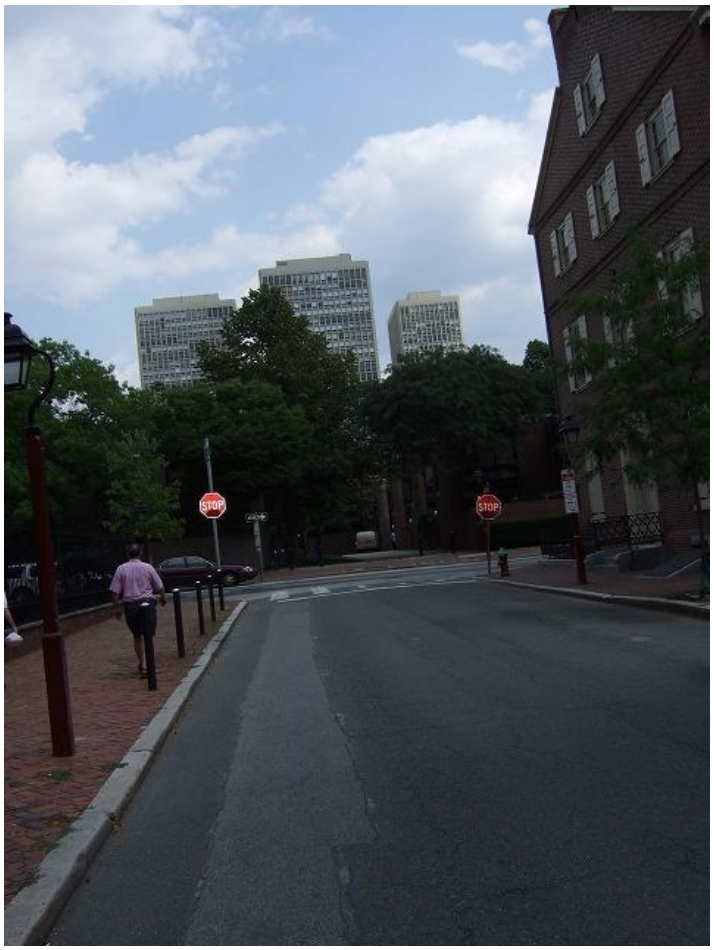
僕自身はあのころ入りたかったけど、チャックがうんと言わなかった。今でも、彼は都心嫌いだ。



そして、上掲がリッテンハウス公園。

下掲はＯＳＪ（旧い聖･ヨセフ教会）の傍にそそり立っている社会ヶ丘コンドミニウム。

昔だったら、僕たちも入居できたが、今では高嶺の花。



Diary. August20. Friday.　入手した二書籍。南沙列島。

★　東京の進也から。

昨日の夜がちょっと涼しかった。その効果が今朝には感じられて、気温がやや低い。同時に太陽の位置が低くなり、窓の日差しが僕の背中に近づいている。

今日はガス会社の器具点検が来る。朝、電話があって出版退職者会から、先日聞いた『老後の暮らし方』講演会の感想を書けという。これは承諾した。８００字だ。
もう一つは大連会からで、３１日に大連理工大学の林、杜両教授の歓迎会に出てくれという。これも承諾。

新聞の解説記事によると、南シナ海の南沙列島をめぐって周辺諸国で微妙な問題があるらしい。この小群島、大戦時に新南群島と呼び、日本の領土だと宣言したのを覚えている。いまは当然周辺国、特にフィリピン、ベトナムあたりが開発を試みているが、中国も黙っていない。海軍を派遣してにらみを利かせているようだ。解説ではフィリピンが９１年にアメリカの基地をフィリピンから撤退させた。それで空白ができて中国の介入を招いたというのだ。地政学というのは不動で、この記事は沖縄の重要性は対中国・北朝鮮で揺るがないとする。困ったね。僕など何とかして沖縄から基地をなくしたいと思うが、地政学上は沖縄の位置を動かさない限り、基地も動かないと思われる。進也、１０時４５分

★　Ｔｈｏｍａｓ：

●金曜日。

今午前３時。眼が覚めて、眠りに戻りないので冷蔵庫から黒ビール一缶とりだして、Ｃｏｍｐｕｔｅｒに向かっている。

少年時代に過ごした紐育州北部のアドリオンダク山岳地帯（Ｌａｋｅ　Ｐｌａｃｉｄで有名）では、９月１日はもう既に秋初旬の終わりだった。モミジが険しい山頂から崩れ落ちる谷間を飾りはじめ、寒風が噴出していた。

南沙列島をめぐる思惑には「国防」は勿論「石油発掘権」もからみ、作戦の定石問題も意味しているんだろう？即ちもう一つの「タケシマ」だ。

●土曜日。午前９時。

チャックは土曜日だからお御堂勤務。
ひさのさんから明日の午前７時半ミサ出席に誘われた。勿論出席する。

ひさしぶりだし。

麗らかに晴れた土曜日の朝だ。

●今週入手したばかりな書籍：

Toye, Richard.
hurchill's empire. The world that made him and the world he made. NY, Henry Holt, 2010
娘のスーザンが贈ってくれた。ケンブリッヂ出身、３７歳の若手歴史学者。
僕はオクスブリッジに癒着したアイヴィ・リーグの雰囲気で育ったから、スーザンはあの雰囲気まる反対の著書に僕が興味があるだろうと思ったらしい。
たしかに、新鮮な観点をもつ学者だ。

Jackson, Helen Hunt 1830-1885.
A century of dishonor. A sketch of the States Government's dealings with some of the Indian tribes. Norman, University of Oklahoma Press,
昨日、教会図書室で宗教書でないために破棄されたこの著作を見付けたので、持ち帰った。ペリー提督が浦賀に来たとき、著者の彼女は２３歳だった。そして、彼女は明治を通して生きた。

ペリー提督来訪期に、アメリカで既に少数民族問題に目覚め、差別と迫害に反対した女性があちこちに居たことは特記すべきだろう。

Diary. August21. Saturday.　大連中学８回生、東京集会。

日記。８月２１日。日曜日。

● 土曜日。午前９時半記。

大連中学、正門。１９４５。

国際電話で進也と話した。東京在住の大連中学８回生仲間が１０名ばかり集まったそうだ。

出席者：　西村、石川、吉阪、伊藤、柳沢、枡本、赤松、中溝、久富、矢口。

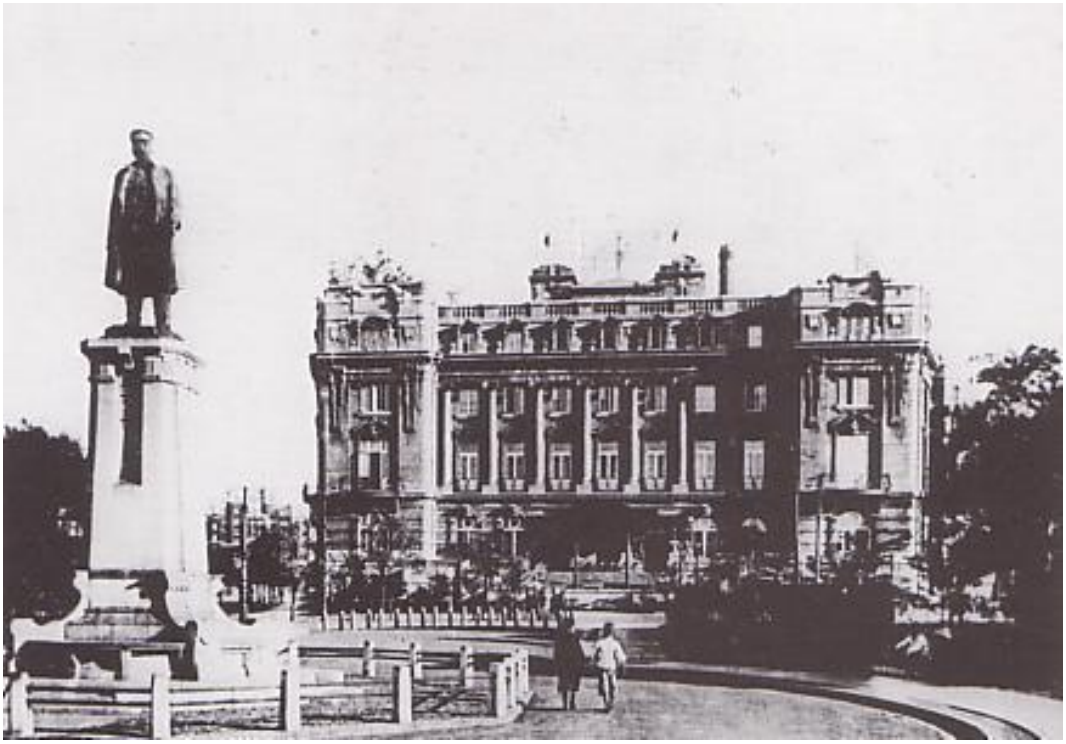
２０１０年の生き残りって感じだ。赤松が進也に「僕のＢｌｏｇを読んで居る」と語ったって知らせてくれた。嬉しかった。

１９４５年に袂を別ってから、６５年の星霜を経た。アタミの集会で訪日して一寸だけ会えた数名は居るけど。僕はもう完全にこちらへ土着してしまった。

● 東京の進也から。受信：８月２２日零時。

君からの確認のメール、そのほかの迷惑メール、それから金さんからえりさんへの返信、すべて着信した、まあ正常に戻ったといえる。空白になった 10 日間の分、ほとんどは迷惑メールだと思うがそれの探索がまだすんでいない。ウイークデイになったらこれも何とかする。

今朝も抜けるような青空、安定した晴天は喜ばしいが、いかんせん暑すぎて、もういいよ、といいたくなる。しかし、体のほうも何とか適応してよく眠れるから、どうやら体力を維持しているみたい。朝、目が覚めたらもう 7 時 40 分だった。

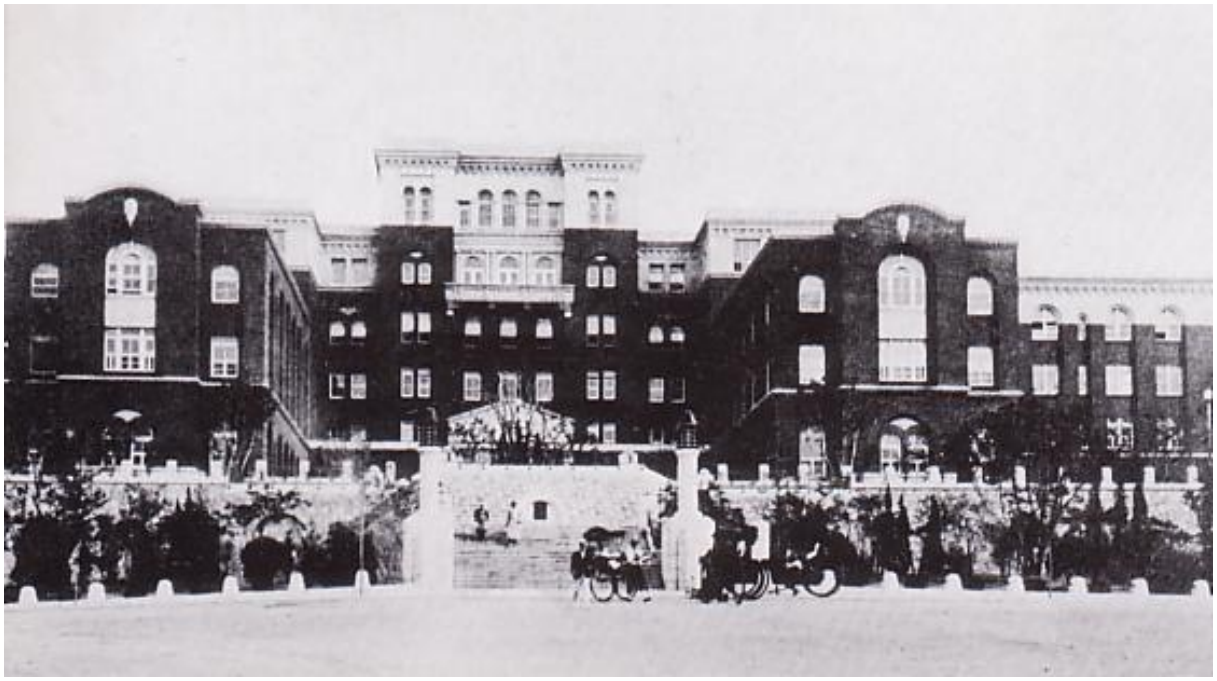


大連、ヤマトホテル、１９４５年。

昨日の(大連中学）あかしや会納涼会は楽しかった。体に故障のない限りみな出てくる。10 人が揃った。それぞれに指名されて、いろんな懐古談をしゃべったが面白かったよ。升本君が、七面山のふもとにあるリンゴ園に忍び込み、リンゴを取ろうとした瞬間に全員つかまり、農園主の日本人にこっぴどく説教された話や、いろいろあった。中溝君が、自分は落ちこぼれと称し、その落ちこぼれのまま今日まで来た、今も反戦平和の運動にかかわっているのは落ちこぼれの執念だといっていて、その信念には脱帽した。久富君が映画俳優に応募して、人から勧められてのことだったらしいが、最終選考まで行ったのに審査員の佐分利信という俳優が、君には九州のなまりがある、と言って、不合格になったそうだ。彼はそういえばちょっとイイ男だったね。
夜、高君から電話があって今までにない体の不調で行けなかった、といって、参加を希望する女性たち、小西夫人、紫藤夫人、水谷さんらの参加を考えてほしいといっていた。彼はこういうことを配慮する人だ。

大分の 20 世紀大連会議の編集にかかわっている佐藤治さんから電話とメールが来て、あそこの雑誌に寄稿してくれといってきた。これも当然書かなくてはならない。何だか忙しくなってきた。進也、11 時 45 分

★　Ｔｈｏｍａｓから。



大連病院。１９４５。

久富に「九州の訛りがある」って、あれ「大連訛り」なんだろう？
アメリカで当時こちらで時たまあった日本人たちから、僕の日本語には「妙な」訛りがあるってときどき言われたよ。僕たちの日本語には「合成訛り」があったかも知れない。日本各地、ことに九州から流れ込んだ植民社会だったから。

審査員の意見にしては妙な偏見だね。そんな意見が通用する不合理な世代だった。アメリカでは通用しないし、人権侵害になる。

★★★

Comments

1 ■大連中学８回生仲間が１０名・・・

トーマス様

こんばんは

本当なら１１名にしたかったでね！

古い写真、なんども見てます。

川上龍也 2010-08-23 00:46:07

2 ■Re:大連中学８回生仲間が１０名・・・

＞川上龍也さん

大広場のホテルと大連病院は思い出の焦点です。あのホテルの前を幼馴染のモータ・グローベルマンと二人で脱出前に最後に二人で歩きました。大連病院は１９３４年ごろ帝国女子医専を卒業してから医師として勤めた場所だし、親友のヨセフ・レルナーが生

まれた場所でした。大連中学は綺麗な、すっきりした校舎でした。すべてが過ぎ去った夢です。
コメントありがとう。　　Ｔｈｏｍａｓ
thomas-penfield 2010-08-23 02:45:29

3 ■Re:Re:大連中学８回生仲間が１０名･･･
＞thomas-penfield さん
おはようございます。
大連の陽気もすっかり秋に入ってます。今朝は窓開けると寒いです。
トーマスさん脱出前最後に歩いた、思い出の焦点の地、中山広場は、今、地下鉄工事中で広場の半分が工事壁で囲まれ見る影も半減しています。私は、ほぼ毎日、自動車で走ってます。
病院も時々、お世話になっています。
またコメントします。
再見
川上龍也 2010-08-23 07:22:37

4 ■Re:Re:Re:大連中学８回生仲間が１０名･･･
＞川上龍也さん
大連に地下鉄とはね。
コメントありがとう。
Ｔｈｏｍａｓ
thomas-penfield 2010-08-23 10:13:19

Diary. August22. Sunday.　本間千枝子。アメリカの食卓。

日記。８月２２日。

ひさのさんが都心にＤｒｉｖｅしてくださって、７時半のミサに出席。

爾後、八大超級市場の越南食堂で二人で朝食をとった。
（いつもの特別ブン麺）,越南流漢字ではブンには粉が該当するのだと思うけど、わからない。僕の大好物だが、チャックは僕と４２年一緒に暮らしていて東洋風食事には辟易している。あたりまえだ。だから彼を"そっと"して、こうしてひさのさんと東洋に"もどる"とほっとすることがある。

お別れするとき、彼女が下掲書籍を渡してくださった。

① 大橋鎮子。暮らしの手帳とわたし。暮らしの手帳社、平成２２。
② 本間千枝子。アメリカの食卓。文春文庫。１９８４。

８１歳になったものだ、やはり疲れた。疲労困憊したわけではないけど。それで本間書②をベッドに横たわったまま読み出した。そして、たまげた。本間さんは１９３３年生まれだ。１９７５年前後にアメリカで７年暮らした方だ。

１９４８年から１９６８年までの２０年間、僕がこの国のその中で育ったにしろ、すでに消滅しつつあった古いアングロ・アメリカが、本間さんが体験した紐育のＧｒｅｅｎｗｉｃｈ　Ｖｉｌｌａｇｅを中心としたアメリカには未だに残っていた。

勿論本間さんを僕は存知あげない。

だが妙なもので本間さんは”良き、美しかりき、古きアメリカ”に飛び込んで、体験した”あのころの食物”を土台に僕の当時のアメリカをあますことなく秀麗な日本語で写生して見せている。見事な筆力だ。

太平洋戦争直後に少年のままこちらに単身で来て、在米二年目にニューハンプシャの学習院めいたダーツマスに飛び込んで暮らしたアメリカが、本間さんの１９７５年アメリカの中にはまだ残っていた。

ニューハンプシャから汽車でグランド・セントラル駅にたどり着き、３４番街の安宿ＹＭＣＡに一泊２ドルで部屋をとり、地下鉄をクリストファー通りまでとって地上に這い上がるとＣｈｒｉｓｔｏｐｅｒ　Ｓｔの雑踏がパット広がる。今でも同じだ。

だが、クリストファー通りを中心とした性指向革命は１９６９年にはもう既成事実になってしまってた。

本間さんが体験したアメリカは、五色旗が翻るすでに性指向革命後のアメリカだった。

BOVRIL
WE ARE NATURE'S CHILDREN TOO !!

★★★

Comments

1 ■はじめまして

本間千枝子氏の著書を検索中にこちらに辿り着きました。私は 1980 年代から米国西部に居住しております。東部及び中西部・南部には旅行で訪れたことしかなく、一通りの歴史は知識としてありますが、現地の「日常」体験を綴る文章に興味を持ち検索しておりました。

「アメリカの食卓」は私がカリフォルニア州に移り住んだ子供の頃に出会った本でした。自分の知らない時代と場所を食べ物に絡めて語る独特の世界に夢中になり、何度も繰り返し読んだものです。その中の一部分、著者がサンフランシスコの友人宅に滞在した部分だけがかろうじて当時の自分にも土地の空気を自分の体験として思い起こせる箇所だったと記憶しています。私の知るサンフランシスコは文中の描写より随分後のものでしたけど。

おそらく千枝子氏が最初に渡米されたのは 70 年代よりも一昔、或いは二昔前の時代の NY であったと思います。最初の滞在中に本間長世氏とご結婚され、その後は何度か日本とアメリカに居を変えられたようです。長世氏のご専門はアメリカ史であった為、通算 7 年の滞米時には常に大学のある街に住まわれていたというような記載が本文にあったように思います。

1975 年のアメリカを自分は知りません。

80 年代から暮らす者の印象でしか無いのですが、そして荒くれ者の開拓した Wild Wild West 的なんでもありでざっくりな土地文化に育った者の感想でしか無いのですが、本著に記される、特に著者が若い頃の NY はまるで昔の映画のような未知の別世界でした。

おそらく千枝子氏の記した NY は、米国移住の大先輩である Thomas-Penfield 様が青春を過ごされた時代に近いのでは、と感じます。

長々と失礼いたしました。

日記に書かれたご感想に嬉しくなりつい駄文投稿させて頂きました。

フィラデルフィア周辺は雨天が続くと TV で予報が流れておりました。

お体ご自愛ください。

m 2013-12-05 07:29:03

2 ■Re:はじめまして

＞m さん

書き込みありがとうございます。

僕は１９４８年に単独で、あてもなく逃げてきました。狭間育ちの僕は東洋には浮かぶ瀬がなかったから。７０年前の昔です。

今後ともよろしく。

Thomas

thomas-penfield 2013-12-05 11:59:43

Diary. August23. Monday.　裏庭晩夏。

８月２３日。月曜日。

月曜日で、午前６時に病院体操。
午前１０時半にチャックといつもの洗濯やと超級市場買出し。

そのあと、ボーダーズ書店喫茶部でコーフィー。

久しぶりに裏庭の鳥風呂に雀が数羽訪れて、水浴びに興じていた。

★　昨日一緒にミサに出席したひさのさんから。
トーマスさん

「アメリカの食卓」楽しんで頂けて、本当に嬉しいです。

この本は、既に絶版で、先日日本に行った折にアマゾン（古本）で求めました。

実は、昔、初版の文庫前の一般書の時点で読んだことがあるのですが、アメリカの知識がまったくなかったので、今回ほど楽しめなかったですね。本間千枝子の夫は、下記の通りです。ウィキペディアより。

本間 長世（ほんま ながよ、1929年7 月5日 - ）は、日本の政治学者・思想史家で、東京大学教養学部名誉教授。専門は、政治文化論、アメリカ思想史。文化功労者。

東京府（現・東京都）生まれ。東京高等師範学校附属中学校（現・筑波大学附属中学校・高等学校）、旧制一高、東京大学教養学部卒。アメリカ・アマースト大学およびコロンビア大学大学院で学ぶ。東京大学教

養学部教授、90 年、学長選で同数票となりくじ引きで敗れる。定年退官後、東京女子大学教授、成城学園学園長（1995 年-2003 年）。米国留学中知り合って結婚した妻が、エッセイストの本間千枝子。2000 年 9 月に亡くなった元日本銀行理事で日本債券信用銀行（後あおぞら銀行）社長だった本間忠世は、実弟である。

★今日の裏庭駐車エプロン。

裏庭駐車エプロンの花壇にチャックが丹精した花の群れが咲き誇っている。
僕たちの車はもう１０年使いふるしたホンダ１９９１．だが、未だにたった３万マイル（５万キロ未満）しか走っていない。この調子では、あと１０年は持つだろう。

去年、近所の「なんでもや」さんに頼んで、裏庭の古びたドアを全ガラスの純白ドアに変えてもらった。おかげで、出入りがすっきりした眺めになったと思う。

これが、ちょっとした夕立のあと、居間窓から眺めた後ろ庭。

そして、今日もチャックは教会のミサ・聖餐用聖布の準備に余念がない。

Diary. August24. Tuesday.　僕の村ペンフィールド初秋。

日記。８月２４日。

今日は火曜日、２４日、チャックの在宅日。襄の学校が９月に開くので、６月に受け取った長岡の小学生６名の手紙にそれぞれ返事を書いて郵送した。
この子供達が将来アメリカと日本の間を気ままに休暇で往来する日がいずれ来るだろうか？

★東京の進也から。

昨日は夜にもう一度メールを書くつもりだったが、図書新聞の仕事のあと、診療所を２か所回ったので遅くなり、とうとう書けなかった。常用している薬がそれぞれなくなり、補充しなければならなかったからだ。最初の診療所では皮膚の薬を、次のところでは睡眠薬をもらった。ついでに大型スーパーのイト―ヨ―カド―に入り、下着を少し補充した。
暑さとの根比べだが、こう続くと根負けしそうだ。今朝も 4 時ころ暑くて目が覚め、30 分ほどクーラーを入れてもう一度寝た。鴨緑江に洪水をもたらしたらしい前線が東に移りながら南下しているが、これは東北地方までらしく、関東に届かない。当分日照りだろう。

沖縄の基地問題に僕が地政学を持ち出したのは、歴史的事実だからだ。沖縄にしても朝鮮半島にしても、地理的な不利はどうしようもない。歴代朝鮮の王朝は外国に遠征したことはなく平和的なのに、唐、元、清に侵され、秀吉からも侵略される。近代に至っては中国、ロシア、日本に囲まれてさんざんだった。沖縄も同じ運命にある。どうすれば中立を保てるか。この地域に相互不可侵の平和を構築するしかないはずだ。進也、11 時

★　Ｔｈｏｍａｓから。

たしかに、沖縄と朝鮮の地政条件は似通っているね。
こちらに６０年住んで感じたことだけど、沖縄の知識人たちには普通の日本人とは大分ことなった歴史認識を持つと思っている。

こちらに来てから、大連中学の上原が沖縄出身であることを知った。
戦争中、彼があの戦争をどう考えていたかは、知る由もなかった。
僕が在学中に憎まれて袋叩きにあった時、彼は離れて、孤立して、黙ったまま手を出さなく、ぽつんと立っていた。
でも、間違いなく皇国少年だったし、成績も悪くなかった。

アメリカには沖縄出身者が多い。

（註。殴られた理由もあったんだよ。１３歳のコドモのくせに、おませだった。天皇機関説を口にし、英語が喋れて、「この戦争は見込みない」なんてことを口にしたんだから。この子たちは僕がテンノウがキカンシャだと言ったと思

ったのかもしれない。笑。）

★　僕の村、ペンフィールドの初秋。

上掲と下掲の二写真はもう数回撮影したことがある風景。
赤い花が咲いてる樹木はＣｒａｐｅ　Ｍｙｒｔｌｅ。クレープ・マートル。晩夏になると咲き誇ってくれる大好きな樹。左は朝鮮の国花、無窮花。
道路の向こう側の突き当たりに部落でただ一軒の雑貨屋兼茶店がある。
ほんと。それだけしかない。アメリカの集落は寂しい、住民がもう溶け合う場所が消えた。そのかわり、清潔で、個人的で、裕福だと思える場合が多い。

このあたりでは、前庭を刈り込み、芝生を整え、草花に神経質なほど気を使う家庭が多い。

そして、アメリカの素人旦那よろしく、家屋改築まで手を染める夫君もいる。

勿論、日曜大工だ。この家の修理と改造はもう半年もかかっている。

この家の前を散歩で通り過ぎるたびにため息がでる。

上掲と下掲ともに、前庭の手入れの模範例。

そして、下掲が僕たちの家の後ろ庭。
手入れは全部チャック任せだ。笑
彼ぐらい家や庭の手入れに執着するおとこは日本では珍しいかもしれない。
七十を越す年齢になって、お御堂の世話だってね。しかも、原則的に無料奉仕だ。

★★★

Comments

1 ■チャックさま

おはようございます。

美しい庭写真。

緑が多く、また皆が大切にする地

すばらしいですね！

チャック様に日々の辛苦了をお伝え下さい。笑！

川上龍也 2010-08-26 09:08:41

2 ■Re:チャックさま

＞川上龍也さん

「ありがとう」と彼が申してます。

彼は僕の母の世話

を１４年してくれたので、ショキュウ・ニホンゴができます。

チョトマテクダサイ。ゴハンタベル？イテマイリマス。＆タダイマカエリマシタ。

笑。

Ｔｈｏｍａｓ

thomas-penfield 2010-08-26 09:51:58

Diary.August25. Wednesday.　本間長世さんのアマースト。

日記。８月２５日。

★日曜日にひさのさんが下さったお便りから：
本間千枝子の夫は、下記の通りです。ウィキペディアより。

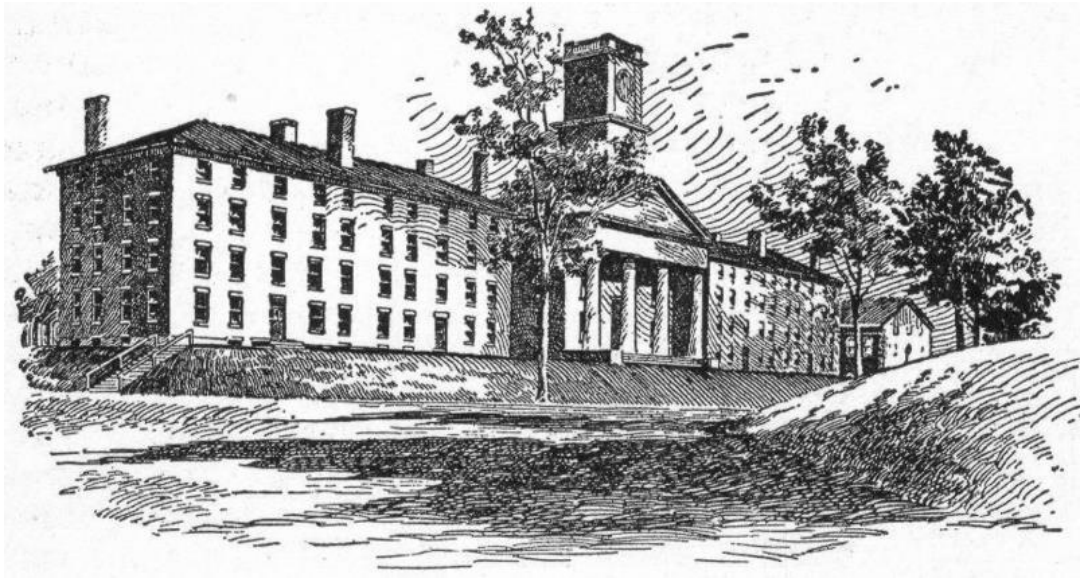
"本間 長世（ほんま ながよ、1929 年 7 月 5 日 - ）は、日本の政治学者・思想史家で、東京大学教養学部名誉教授。専門は、政治文化論、アメリカ思想史。文化功労者。

東京府（現・東京都）生まれ。東京高等師範学校附属中学校（現・筑波大学附属中学校・高等学校）、旧制一高、東京大学教養学部卒。アメリカ・アマースト大学およびコロンビア大学大学院で学ぶ。"

（僕たちが馴染んだニューイングランド風景。これはアマースト付近。）

本間さんと僕は二人とも昭和４年生まれ。彼は一高、僕は旅順高校におそらく同時に入学。アメリカで彼はアマースト、僕はダーツマス。

それにしても、僕たちは別々個々の道を歩いたものだ。



（上掲）アマースト大学。（下掲）ダーツマス大学。

そして、アマースト町とダーツマスのハノヴァー町は眼と鼻の距離だった。

そして、似たり寄ったり。

こんなことを六拾年経ってから、ひさのさんから教わるとはね。

矛盾だらけの階級社会ではあったけど、人情があったし、ｲｷﾃｲｹﾙ社会だった。素寒貧で外来で、しかも当時戦争直後で悪感情が残っていても、今から考えると優遇されたと思う。南部では黒人リンチが横行していたし、カリフォルニアの日系市民が強制収用所から解放されたばかりだった。

★

Diary. August26. Thursday.　幽霊老人怪談。俘虜記。

日記。８月２６日。

★　東京の進也から。受信：　　００:44 AM (5 hours ago)

病院には９時半までに行く約束だったので家を８時半に出た。担当の医師が休暇中で代わりの医師が処方箋を出してくれたのだが、空いていて10時には手続きが終わった。早速とってかえし、パンやらちょっとしたちらしずしを買い（これは昼の食事）、近所に薬局で薬をもらい、帰宅したのは11時半だった。午前中で終わったのは幸いだった。相変わらずの暑さだが、慣れっこになった。

ところで、日本のおける 100 歳以上の年寄りのこと、だんだん怪談じみてきた。戸籍上の最高齢者は、三重県志摩の163歳だそうで、大阪では120歳以上が５千人いるそうだ。すべて戸籍上のことで、これは旧民法の家制度が形骸化した結果だと思う。昔は何かと戸籍抄本が必要で、たとえば中学の入試にも必要だった。いまは簡易な住民票ですむから戸籍はチェックされないのだと思う。僕だって結婚を機に千葉県に新しい戸籍をつくったけれど、その書類を使った覚えがない。
もっとも、この事件の発端になった 111 歳の老人のこと、30 年以上隠していて、しかも夫人の年金を遺族として受け取っていたから、これは詐欺になり、告訴されるらしい。総計 915 万円。死人が家族を扶養していたなんてまさに現代の怪談だ。

大岡昇平の『ある補充兵の戦い』という本を見つけたので借りてきた。例の有名な『俘虜記』の周辺の短編集。昔読んだものもあるが改めて読んで大岡の文章のうまさに感銘する。進也、13 時 45 分

★　Ｔｈｏｍａｓ　から。

●　日本のお役所の書類煩雑さは昔から有名だったが、まだ残るわけだね。こちらのも相当なものだ。

そして、労働雇用関係がぐちゃぐちゃになってきている、関係会社が国内雇用をやめて、より安価な未発展乃至発展途上国労働に頼るってわけだから。今になって、そうなったわけでもないさ。日本の無産階級の困窮がこのような幽霊老人事件から伺える。「食っていけなくなってるから、そうなった」のが実情なんだろうねえ。

生産手段が「進化」すると、上部構造がガタガタになるそうな。コドモの時から、聴きなれたくだりだね。

●　前に一寸書いたが、昔徴兵されて、アーケンソー州のチャフィー基地に配属されてたとき、ボニイ・シリングというテキサス育ちの綺麗な子にほれ込んだことがある。赤十字社の職員で、基地に配属された兵士たちの家族について世話をしていた。どうした按配で、僕たちが仲良くなったか覚えてない。あのあたりじゃ、大学を卒業した青年は払底してたのが、理由だったのかもしれない。それに、ほかの青年たちに比べて、僕はたった一人東洋人だった。眼だったし、女好きの周りの連中に比べたら、もちろん品行方正そのものだった。笑。

そのﾎﾞﾆｲが転勤して、日本に去った。

別れる前に、日本から何か送れるかと聞いてくれたので、日本語のＰａｐｅｒｂａｃｋを物色して送って欲しいと言った。彼女はやがて富士山山麓の米軍基地に配属された。１９５６年だったと思う、1ドルが３６０円だった。僕がアメリカにたどり着いた１９４８年の６年あとだよ。日本円がまるでチリガミだった。

ある日、基地の軍事郵便局から小包が届いたから受け取りにこいと中隊本部に電話がかかった。なんだろうと思って、郵便局に行ったら、馬鹿でかい、大きな小包が届いてた。
あけたら、イワナミ文庫と新潮文庫のＰａｐｅｒｂａｃｋがぎっしりと詰まっていた。ボニイが東大出のアルバイト学生に頼んで物色してもらったらしい。

その時、それで読んだ一冊が大岡昇平の「俘虜記」だった。
軍服を着たまま、僕のｺｯﾄに寝転んで読んだ。
一生、金輪際忘れられない思い出だ。

戦争中全部を通じて、僕たちはまともな本は読めなかったものね。
中学の図書室に鍵をかけた馬鹿馬鹿しい時代だったもの。

へエー、日本にもこんな本を書く人が居たのだと感心した。

妙な感心だったけどね。
しかも、アメリカ女性が富士山麓から送ってくれて、アーケンソーの田舎で読んだのだ。

★　新潟の襄から。　　８月２６日（木曜日）

とむさん

今日も暑い一日でした。
でもやっぱり、季節が動いているのを感じます。
ジリジリ照りつける痛いような陽射しを避けて日陰に入ると、
通り抜ける風が心地良く感じられるようになりましたからね。
我が校は、明日の午後から土曜に掛けて長野方面への職員旅行です。
私は土曜に法事があるので不参加。
みんなを見送って、午後から学校に残って日直です。

（子供たちへの手紙は）当たり障りのない手紙で十分です。
有り難うございます。
アメリカから届いたということが、
彼らにとっては何よりも価値あることですから。

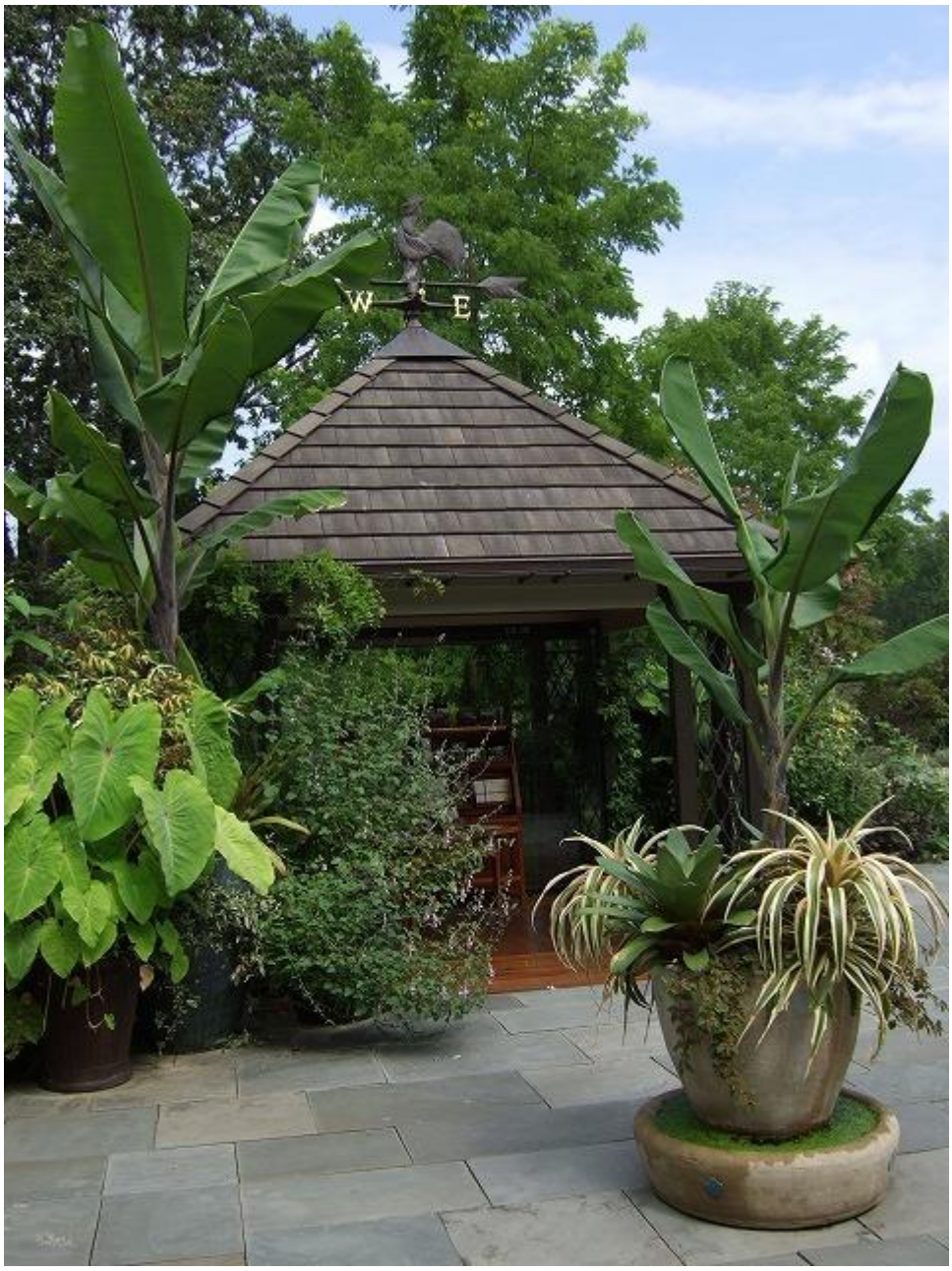
局地的に大雨が降っている You で、長岡市に大雨警報が発令されました。
でも、このあたりは全く雨の気配がありません。
極端に雨が少なく暑すぎたために、作物に影響が出ているとのこと。
果物も米も、暑さによる被害が出ているようです。

Diary. August26. Thursday.　2010 年秋。シャンティクレア植物園の初秋。

２０１０年８月２６日。

木曜日、チャックの在宅日。
朝食後、チャックがシャンティクエア植物園に行こうと言い出した。
二ヶ月前に訪れたきりだ。そしてもう８月末。
午前十時に僕たち老人二人で訪れた。

この写真左端の駐車場が案外一杯。木曜日の週日なのに。
新装された歩道を右上の入り口まで歩いて、切符を買う。



切符売店のおばさんがぽつねんと座ってた。

売店の前をでかい棕櫚が二基ばかり飾る。

こんな大きな棕櫚を冬になったら何処に避難させるのかね？

チャックが要らぬ心配を口にする。凝り性なんだね。

入場料が５ドル（４００円）。
ドルがまた下がった。
歩きだすと、この植物園の慣れた風景が降る緩やかな芝生の前方に展開する。
遠くに白衣の二人連れが見える。だが、ここはアメリカだ。
名も知らぬこの紫色の花が僕の惚れ込み。

ここは本邸横庭に突出する展望台だ。

本邸裏庭に入ったら、クレープ・マートルが咲いていた。
日本名を新潟の襄が教えてくれた。　　”さるすべり”。

さるすべりの下に、青葉が白葉に変色する植物があしらってあった。

このように、色彩調合まで心配してくれる植物園だから僕たちが飽きないんだ。

襄が教えてくれた通りに、クレープ・マートルの幹肌は「猿もすべる」ほどツルツルしてた。
そして、彼と僕たち三人でここに来訪した二年前の夏を思い出した。
日本は遠い。

毎度見るプール。洒落た脱衣場。（二軒ある。）

大韓民国の国花、無窮花。

そして、もう誰も住んでない本邸。

裏庭からの坂を下ると、遠くに玉蜀黍の林が見えた。

二ヶ月前には、こんなのが無かった。

道の左右に拡がっている。

チャックはさっさと林のなかに歩き這入る。

満州の昔の「高粱」を思い出した。大連から奉天まで線路の両側に、えんえんと広がる高粱の大うねりは今でもあるのかしら？知る由もない。

今では、たった大連から奉天まで二時間しかかからなくなると読んだ。
遠大だった満州廣野が恋しい。
満州が僕たちの故郷なのだ。少数民族の寄り合い世帯でもあった。
「天地内有了新満州。」
御法度句になってしまった。

本格的な林に入る。一般が読めないこの日本語標札が目に付く。
この標札もこちらでは美的装飾の一つだ。
このあたりは、草花を囲む垣根も「竹垣根」、釘も使わないで濃茶色の茶紐（？）を使っている。便所も日本式建物。ただし、内部はアメリカ式。笑。

こんな風にアメリカ市民の実用好日趣味が見え隠れする。良いことさ。

そして、蓮池につく。これが、蓮池に通じる石階段。
でも、池を迂回して、歩道が続く。
日本式の橋が歩道を続ける。

歩きながら、しみじみと思った。
８０を越して、こうしてアメリカの天地を散歩、闊歩してる。
そばに、民族の国境を越えてまで、一緒に４１年も生活をともにしてくれる友がいる。

１９４３年に、毎度逃げ込んでは、過ごした、大連のあの教会の暗がりの聖ヨセフ像を思い出した。

★★★

Comments

1　■御手洗い

おはようございます。

トーマス様

今朝も緑生い茂るきれいな写真で目が覚めました。

今日は、長興島で大連商工会のゴルフコンペです。

行って来ます。

外は雨なんですが・・・

再見

川上龍也 2010-08-29 05:34:24

2 ■Re:御手洗い

＞川上龍也さん

長興島とはね。星海公園沖の島を含み、大連沿岸の島は、僕の世代ではご法度でした。そのような島に今ではゴルフ場があるのでしょうね。

その島大連南部なのですか？

行って見たいのが大連です。

コメントありがとう。

Ｔｈｏｍａｓ

thomas-penfield 2010-08-29 07:21:52

3 ■行って見たいのが大連です。・・・

トーマス様が行ってみたい大連。

青春の思い出の地、大連。

その大連に駐在する私です。

ご高齢のトーマス様の心を察すれば・・・

何かお手伝いできれば・・・

思い出の地等情報を下さい。

可の限り写真撮影や動画撮影して提供します。

いつまでもお元気で！

再見

川上龍也 2010-08-29 21:06:22

Diary. August27. Friday.

★ 東京の進也から。　受信：木曜日、8:55 PM (7 hours ago)

本間長世さんの書いたものは何か読んだ記憶があるが書名までは記憶していない。
今日はもう金曜日、週末も近い。新聞の天気予報欄は同じ地域の 1 週間分の概況を載せているが、東京はずっと晴れの予報、しかもこの 10 日ぐらい同じなのだ。気象の神様も無精になったものだ。ずっと同じ判子を押しているのだろう。渇水にならないかと誰でも思うが、ダムは 90%くらいある。なんでも山沿いはよく雨が降るから貯水量は保持されているそうだ。妙に感心する。

えりさんが、日本ってこんなにいい加減な国だったか、という怒りもわかります。ただ、何もかも国にすべて管理されてはたまらない。そういう国の外にいたい人もいるはずです。

今日は原稿を書かなくてはならない。まじめに仕事をする。進也、10 時

★　Ｔｈｏｍａｓ．　極端だが、アメリカのＴｅａ　Ｐａｒｔｙ連中が「国の管理嫌い」だよ。政府嫌悪はアメリカ人心理に定着している。サヨクのオカミ観はローズヴェルト以降だ。

★　新潟の襄から。　８月２７日（金曜日）

とむさん

今日も暑い日でした。
実によく晴れます。
そしていよいよ明日は四十九日。
冷房のないお寺の本堂で、お経を聞かねばなりません。
お経を上げるお坊さんも大変でしょう。
ｋ
お経が終わると、料理屋に移動します。
ビールや酒の手配に気を遣いながら、おもてなしです。
挨拶もしなmければなりません。
まあ、葬式の時に比べたら、随分と気が楽ですけどね。

早く明日が終わりますように。

★　Ｔｈｏｍａｓ．

何処の社会でも冠婚葬祭だかの慣習って似たり寄ったりね。
でも、今の僕の親友仲間じゃ葬式を省いて、墓地で埋葬のお祈りだけをする人々が殆ど。
教会は相手にされないし、葬儀屋は埋葬手続きか火葬手続きだけ。これじゃ、儲からないのがあたりまえ。教会も葬儀屋もどんどん消えてる。

★　東京の進也から。８月２９日発。

今日は日曜だが、市川ケーブルネットワークが機械の点検にくるという。テレビとインターネットだ。最近、NTT の光回線の売り込みがはげしい。もちろん、インターネットも切り替えろというわけ。アドレスを変えたり面倒なので断っている。市川ケーブルも電話を切り替えてほしいだろうが、これは今までどおりにする。昼ごろに来る。

今週は半ばで 9 月に入る。しかし当分は高温の残暑だ。天気図を見ると、日本列島を中心に周辺を雲が時計回りに回っているのが分かる。要するに、日本は高圧帯に入ったままなのだ。
月曜と水曜は図書新聞、火曜は大連からきている大学人の歓迎会。後半は予定がない。進也、11 時 20 分

Diary. August28. Saturday.　メモ、東風に乗って。

日記。８月２８日。

★　東京の進也から。　受信：８月２８日。　６:５６　ＡＭ.

木更津に行ってきた。涼しくなったら行こうと先延ばししていたが、この晴天、この暑さ、終わりが感じられない。やっぱりひどく暑かったが仕方ない。広子は昨日からちょっと微熱があるとかでアイスノンの枕をしていたが、まあだいたいは変わりないというべきだろう。もう木更津の田んぼは大方稲刈りがすんでいた。

君が割合早い時期に日本文学、ことに大岡昇平など戦後文学を読んでいたことに以前驚いたことがあるが、そういう事情だったのか。日本人の学生に選ばせたとすると、戦後文学のよいところは網羅されていたと思う。

出版界のウオッチャーともいうべき小田光雄「出版状況クロニクル、Ⅱ」を読んだが、これは恐ろしい本だ。出版敗戦記というが、今や日本の出版界は総崩れで、看板雑誌の休刊やら倒産、乗っ取り、どうなるかと思う様子だ。少子化というのが、まず教科書の発行部数の減少から始まり、それに伴って参考書や辞書の売れ行き不振、さらにマンガや子供雑誌の休刊となる。『小学　１　年生』などの学年別の雑誌がなくなる。すべてがマイナスなのだ。昔、日本の公共図書館は全国で 800 館しかなかったそうだが、今では 3000 館もあり、そこでの貸し出しが本の売れ行きを妨げているとまで言われるようになった。それでいて、基本的な学術書を平気で廃棄処分している。読まれないからだそうだ。図書館の堕落だ。進也、18 時 15 分

★　Ｔｈｏｍａｓ.

①　実際、あのときボニイにどんなに感謝したか、筆舌に尽くせないよ。

日本との絆はほぼ完全に切断されてたからね。突然、天から降るように、あの書籍の大箱が届いたんだ。アーケンソーの山奥にね。
しかも、あの時も僕は「思想要注意」だった。ＣＩＣだったかが知らなかったはずがない。師団内で僕は有名になった。
暫くしたら師団本部から中隊長に電話がかかってきた。
日本に転任するという師団長に僕は日本について、僕が話すことになった。
一ヶ月ぐらい通ったかな。半世紀以上前の話だ、師団長の名前さえ覚えてない。
アメリカって面白いね。昔の日本じゃ考えも出来ないだろう？僕は一兵卒だったんだものね。
師団本部から師団長の自動車が迎えに来たんだよ。笑。
「要注意解除」になったんだ。結局僕は「万年二等兵」だったのが、「スペシアリスト３級」、（伍長）になった。
暫くしたら、除隊前に市民権を呉れた。

②　結局４０年前ごろの日本の図書館組織からあまり進歩してないのかも知れないね。

１９７５年に訪日したとき、日本社会の図書館に対する無関心には愕いたが。
久留米の市立図書館だったかを視察した。
久留米藩ご祐筆の記録が地下室の本棚に虫に食われてボロボロになったまま放置されてあった。
僕自身我が目を疑った。

★　新潟の襄から。
８月２８日（土曜日）

とむさん

５ＭＢを超えるファイルが届くなんて、便利になりました。
昔は、添付ファイルの大きさには、結構気を遣いましたからね。
多分、とむさんも光回線にしたおかげだと思います。
昔のままだったら、届いたとしても時間は掛かったでしょうね。
取扱説明書は冊子の方が使い易いですが、念のためにＰＣに保存しておいてください。
いざという時には役に立ちます。

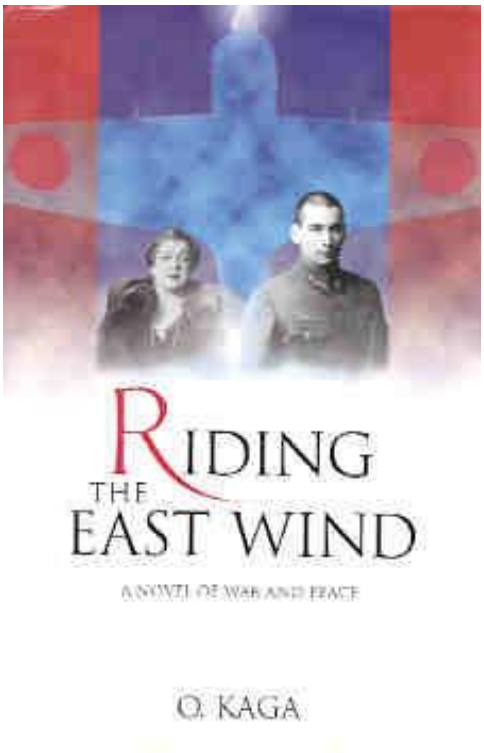
今日は午前から午後に掛けて、四十九日の法要でした。
お寺に集まり、お経を約１時間。
お墓に納骨をして、丁度１２時。
そのまま料理屋に移動して、お斎（おとき　法要後の会食）でした。
終了して家に帰ったら、どっと疲れが出て、思わずうとうとしました。
気疲れですね。
遅い夕食を今食べ終わったところです。

またまた暑い一日でした。
納骨の際には、運悪く私だけが日向に立つことになって、汗が滴りました。
納骨のために墓石を動かすという力仕事もあり、汗が噴き出ました。

夕方になったら、ぐっと涼しくなりました。
日中は真夏並みでしたが、秋めいてきているのを実感します。

★Ｔｈｏｍａｓ：

加賀乙彦の「東風に乗って、Riding the East Wind.」を読み続けている。
この書評は来栖良の事故死の真相をつぶさに述べている。まだ全部を読み終えていないけど。
良は１９１９年、日韓併合の年の生まれだ。特攻隊員として死んだタロウとそんなに差があるわけではない。
二人とも日本の血を享けた混血の実存だった。



The actual death of Ryo Kurusu, son of Saburo and Alice Kurusu, was quite different than Ken Kurushima's fictional death described in this book. Yasukuni Jinja (2003, 76) states that he fought single-handedly against eight American planes and shot down one on February 16, 1945. Watanabe (1999) gives the following account of Ryo Kurusu's tragic death after returning to base (translation by Mieko Morita):

Capt. Kurusu, born in January 1919, died due to an accident at Tama Army Airfield on February 16, 1945. When an air-raid siren sounded at the airfield, all pilots including Capt. Kurusu ran to their aircraft. As he was trying to pass in front of one plane, it moved forward two to three meters, and its propeller cut his neck. His severed head flew up two meters, and his headless body moved forward four or five more steps. This accident was unavoidable even though 1st Lieutenant Umekawa, the pilot of the plane that hit Capt. Kurusu, had fourteen and a half years of flying experience. If someone had given instructions to 1st Lieutenant Umekawa on the taxiway, this unfortunate accident could have been avoided. However, no one was giving directions to the aircraft. Capt. Kurusu was running in 1st Lieutenant Umekawa’s blind spot as everybody hurriedly ran to their planes to make sorties. 1st Lieutenant Umekawa honestly reported the accident to his commander, Maj. Yoshitsugu Aramaki. Maj. Aramaki did not say anything to 1st Lieutenant Umekawa, whose face was pale. Later, the Imperial Army leaders overlooked the accident since it was unavoidable.

Sources Cited

Watanabe, Yoji. 1999. 陸軍実験戦闘機隊 Tokyo: Green Arrow Publishing.

Yasukuni Jinja. 2003. 靖国神社。Yushukan 図録。Tokyo: Yasukuni Jinja.

半世紀以上も経ってしまった今でも僕は未だに ①タロウの死と②大連の常盤橋の袂で奴隷に売られた幼い日本少年と妹二人の姿を忘れていない。

一生忘れないだろう。

Diary. August29. Sunday. 教会親睦パーティー。

日記。8月２９日。

★ 東京の進也から。

電話をありがとう。君の言っていたマーチン・ルーサー・キングの演説は 1963 年 8 月 28 日のものだね。荒このみさんの編集した『アメリカの黒人演説集』（岩波文庫）に出ている。アイ・ハヴァ・ドリーム、という有名な演説だ。「いつの日か、あらゆる谷間は高く上げられ、あらゆる丘や山は低くならされ、起伏のある土地は平原になり、曲がった場所はまっすぐになるのです。神の栄光は示され、あらゆる人間が皆一緒にそれを見るのです。これはわれわれの希望です。この信念で、私は南部に戻って行きます。この信念で、われわれは絶望の山から希望の石を切り出すのです。この信念で、われわれは不協和音で騒がしいこの国を、美しい兄弟愛のシンフォニーへ変貌させるのです。……」

白人の優越を今に夢見る愚かしい人たちは、この人間愛を再認識すべきだろう。

今日はあまりやる気になれない。仕方がないね。のんびりするとしよう。進也、14 時 40 分

★Thomas

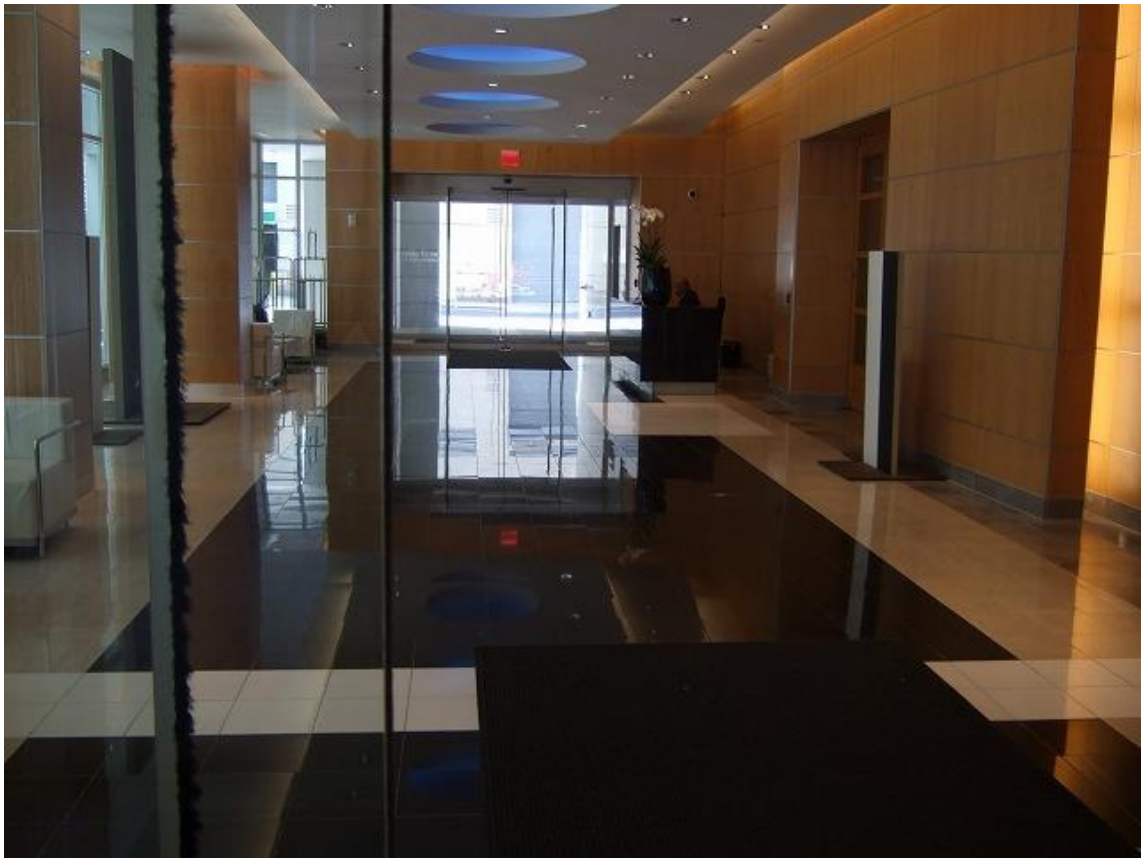
Glenn Beck leads conservative rally
グレン・ベックという男がいる。
It was labelled a rally to "restore honour" in the US and one that was non-political, but on Saturday, Washington's Lincoln Memorial was filled with right-wing supporters.
アメリカに矜持を戻す集会という触れ出しで、庶民右翼（白人優越、テイコク大スキ、アーメンソーメン信者）に売り込んでる奴。
Tens of thousands attended a rally organised by television personality Glenn Beck - who's strongly conservative views include calling Barack Obama, the US president, a racist.

随分ワシントンに集めたらしい。
オバマが白人嫌いで、人種偏見を持ってるというのが売り込み文句。
Also addressing the rally was former Republican vice-presidential candidate Sarah Palin.
あのサラ・ペイリンが演説したそうだから、知能指数が推定できる。
It took place at the same spot where civil rights leader Martin Luther King gave his famous "I have a dream" speech 47 years ago. Beck called the timing "coincidental", but critics have accused him of trying to hijack the anniversary.

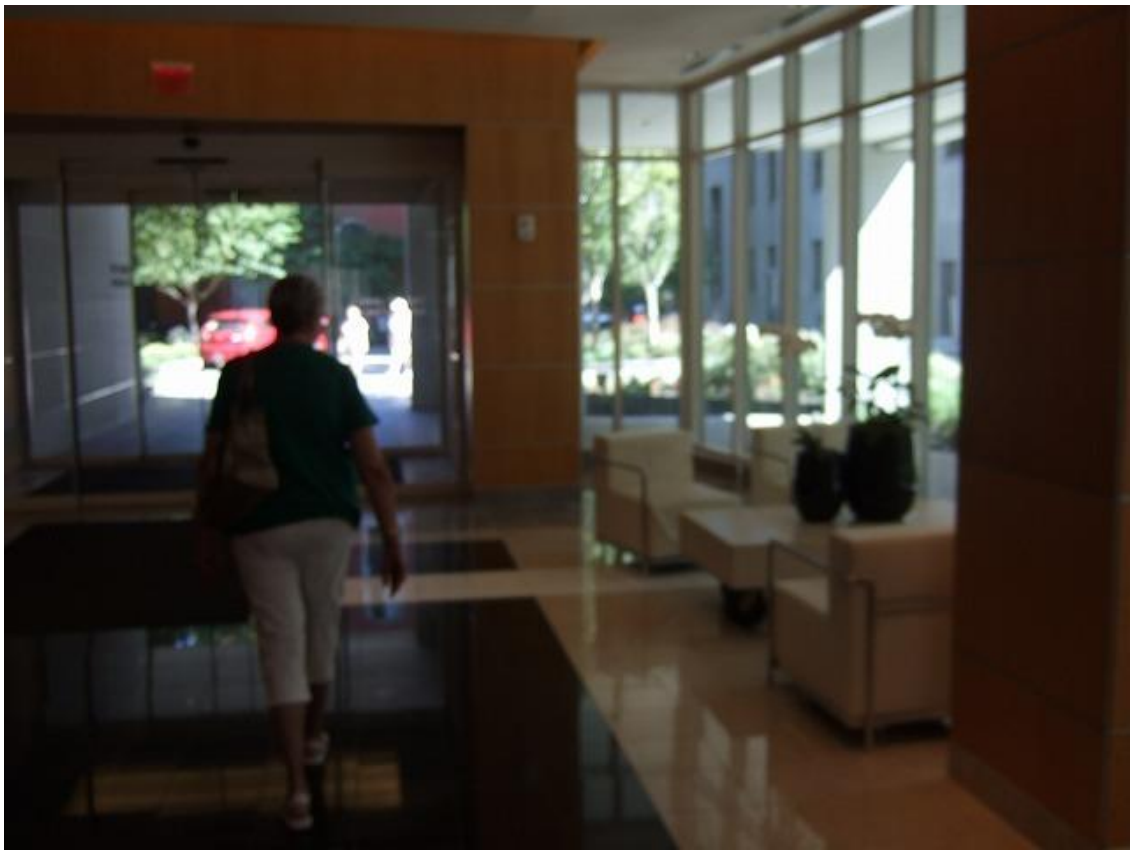
★今日は日曜日。１１時半ミサのあとに、教会内奉仕で活躍してる約３０名がバイルズさん宅の慰労昼餐会に招待された。

それで、皆で都心８番街の彼女のアパートに押しかけた。

彼女は都心にそびえる高層アパートに住んでいる。
デトロイトに住んでた時の僕のアパートに似ているが、都心嫌いのチャックと郊外の隠居暮らしに慣れた僕にはもう縁遠い生活次元だ。



ピカピカに磨き上げられた、入り口の応接間を眺めたらデトロイトを思い出した。



アパートに招じ入れられて、バルコニーから眺めたフィラデルフィア都心風景。

このあたりは宝石と装身具卸やが密集している区域だから、小売店はあまりない。

ただ、昼食を専門とする食堂があちこちに散らばる。

参加者がほぼ３０名だったから、一寸混んだ。でも、教会仲間だけ。

酒は一切なく、オレンジ・ジュースと玉子料理がおもな昼餐だった。

Diary. **August30.** Monday.

日記。８月３０日。

★　東京の進也から。 受信：８月３０日、８時９分。ＡＭ.

メールが遅くなってごめんなさい。今日は意外と忙しく、美術出版の友人と会ったり、仕事もたっぷりとあった。昨日は市川ケーブルの点検をした時、電気の線がごちゃごちゃしているのを整理したが、電話がドアホーンにうまくつながらなくなった。電話会社に電話したらすぐに来たが、回線が複雑でとうとう ３ 人がかりでも修理できなかった。電話との線をあきらめてドアチャイムをつけることにしたが、もう夕方になって今日の仕事にはならない。あす以降は出かける用事があって、いつ修理ができるかわからない。

昨日、君の言っていたティーパーティのワシントンの会合、毎日新聞にはかなり詳しく出た。例のベック氏の名前も出た。

メールで赤松君の原稿が来た。進也、20 時 20 分

★：　Ｔｈｏｍａｓ：大連在住の川上龍也さんへ。

大連を去った１９４６年の夏、ﾎﾟｰﾗﾝﾄﾞ籍だったユダヤ人の親友、モータ・グロウベルマンと一緒に大連駅前から老虎タン行きの電車に乗って、現在「解放路」と呼ばれているらしい電車路を辿り当時桃源台と呼ばれていた停留所で降りて、田舎道をたどり、あのころ附家ショウ（フカショウ）と呼ばれていた、とても辺鄙な海岸に水泳に行ったものです。

モータの一家は南山麓の楓林街の３階アパートの１階に住んでました。

まだソ連軍が駐屯していました。僕たち二人は少し目立ったから、話しかけてくる露西亜兵士と仲良くもなりました。桃源台からフカショウまでの道程はそれこその畑道だけでした。

あのあたりの風景と一般庶民の名も知れない民家の写真が観たいです。もうすっかり消えてしまった景色なんでしょうね。

親友のモータは英語、ロシア語、漢族語、日本語を全部流暢に操りました。僕とは切っても切れない仲でした。イスラエルに移住したようですが、その後の消息は全然つかめていません。

絵葉書風景ではなくて、大連の庶民生活の実態が観たいものです。

ところで、１９３８年に使われた大連電話簿があったのを覚えています。
（戦争中、電話簿が印刷され配布されたか覚えていません。１９３８年版の一番最後にローマ字の外国人電話使用者の名簿がついていました。

わずか数頁だけでした。もしも、図書館でそれを見付けられ、ご覧になる機会がおありになりましたら、複写公表していただけませんでしょうか？あの頃の外国人居留民は全世界に散らばってしまったので、得がたいな記録なのです。
勿論当時の大連英語世界の住所録は殆ど無いことでしょう。

無理なお願いをして、ごめんなさい。

Ｔｈｏｍａｓ

★★★

Comments

1　■任務承諾

おはようございます。

トーマス様

この度は、大連情報収集部員を拝命賜り心より感謝申し上げます。笑！

早速、楓林街、桃源台周辺の情報を収集いたします。

最近は、天気が良くないんでが、何度でも動画カメラ廻しますよ！

図書館、資料館、博物館等々からの収集は、少々、縁が遠いので時間かかりますね！

ご承知下さい。

いつまでもお元気で！

再見

川上龍也 2010-09-02 05:34:12

2 ■昭和 13 年電話番号簿

横着でスイマセン。

グーグルで、大連　電話番号簿を検索しましたら・・・

http://p.tl/0liR

これってトーマス様、ご承知の情報でしょうか？

アカカベ小間物店 溝部猶平 37 中浜 化粧品商並美粧部

～～～

綿商 阿部久太郎 672 浜脇 古綿新綿製造業

載ってます。

旧地名ですので、これって昭和 13 年の大連電話番号簿ですかね！

川上龍也 2010-09-02 06:17:50

3 ■「たうんまっぷ大連」佐藤　量さんご存知ですか？

またネット情報です。

http://p.tl/hvpi

ＰＤＦには、「たうんまっぷ大連」の記事です。

一度、ジェトロ大連に足を運んで見ます。

参考なれば幸いです。

再見

川上龍也 2010-09-02 06:29:32

4 ■Ｈｉｄｅｋｉ’ｓ Ｈｏｍｅ Ｐａｇｅ

断片でスイマセン。

http://www5c.biglobe.ne.jp/~G5hw-sD9/kodatop.htm

ご存知かな？

川上龍也 2010-09-02 06:44:38

5 ■Re:昭和 13 年電話番号簿

＞川上龍也さん

thomas-penfield 2010-09-02 08:10:53

6 ■Re:昭和 13 年電話番号簿

＞川上龍也さん

大連会が発行したＤＶＤ　大連市史年表、②大連市史新聞記事年表、③昭和１３年度、電話帳でーたは所持しています。

③は抜粋抄録で、日本商店リストだけです。電話帳全部を複写してくれるとありがたいのですが、わがままでしょうね。笑。

thomas-penfield 2010-09-02 08:19:59

7 ■Re:任務承諾

＞川上龍也さん

ご親切ありがとう。

Ｔｈｏｍａｓ

thomas-penfield 2010-09-02 08:21:24

8 ■Re:「たうんまっぷ大連」佐藤　量さんご存知ですか？

＞川上龍也さん

親友の矢口進也君のお陰で、大連会発行の関係情報は掴んでいます。タウン・まっぷも持っています。１９４０年前後の詳細な街路アトラスも１９７５年に大阪に行ったとき、入手しました。

thomas-penfield 2010-09-02 08:24:47

9 ■Re:「たうんまっぷ大連」佐藤　量さんご存知ですか？

＞川上龍也さん

佐藤量さんのこと存じています。

Ｔｈｏｍａｓ

thomas-penfield 2010-09-02 08:25:41

10 ■Re:Re:昭和 13 年電話番号簿

＞thomas-penfield さん

了解です。

先ほど大連ＪＥＴＲＯの問い合わせメール送っています。

川上龍也 2010-09-02 11:37:21

Diary.August31. Tuesday.　日本語搭載コンピュータ３０年の悪夢。

日記。8月３１日。

★ 東京の進也から。　受信：　8月３１日。9:14 PM (4 hours ago)

目が覚めたのは 7 時 40 分。えらく遅くなったと雨戸をあければいっぱいの日差し、こんなに暑くなっても眠っていた

とはずいぶん慣れたものだ、と感心した。だんだん熱帯人になりつつある。気温はすでに 30 度だ。

今日は大連会で大連理工大学の学長と教授の歓迎昼食会に出る。何度もこちらで、または大連で会っている旧知の人だから、来日の顔合わせと思えばいい。

君は今の日本の公共図書館がどんな具合か知らないと思う。昔の貸本屋になった、と思えばいい。無料貸し出しに熱心でベストセラーは何冊も買って需要にこたえるし、cd,dvd も貸し出すし、今の若い人はまず図書館の利用を考える。コミックやケータイ小説は電子本で、さらにブックオフという半額安売り屋に行く。僕らの使う本屋とは違う流通ルートができているのだ。進也、10 時 10 分　そろそろ出かける支度をする。

★ Thomas.

図書館が貸本屋化か。ただ、選書だけでもに、責任を持つ図書館ならね。
こっちの本屋には、どんどん漫画本の陳列が目立ちだした。
半分以上が日本語本のまる翻訳なようだ。
一種の白痴化だ。

★ 東京の進也から。　受信：2010 年 9 月 1 日。
8:09 PM (7 hours ago)

出かける前、ちょっと時間ができたので書く。昨日の夕方、プリンターを稼働させようとして四苦八苦した。機械はセットしたが、コンピューターに印刷のアイコンがない。考え込んで、メールで来た文章をファイルに入れたらいいか、と考えた時に佐藤さんが来たので応援を頼んだ。彼もウインドウズセブンを知らない。そのうち、なんとなく押したキーに、印刷の項目があったのでそれを押して何とかできた。やれやれ。僕は 2 月にこのプリンターを買いながら、印刷したいものがなかったから放置していた。機械は慣れないと困る。これで赤松君の原稿が紙になった。

9 月になったが、相変わらずのカンカン照り。驚いたことに庭の雑草が立ち枯れしている。雨が降らないからだ。新聞に出ていたが、蚊も出てこない。水たまりがないからボウフラが育たないのだそうだ。この調子だトトンボも少ないかもしれない。これから出かける。進也、9 時 10 分

★ Ｔｈｏｍａｓから。 ９月１日。午前４時２４分。

同類相憐やな。Ｗｉｎｄｏｗ０７の印刷悩みか。良い塩梅に佐藤さんが傍にいて君は運がよいよ。

僕には相談相手がない。チャックは機械がはじめからお手上げだし。

重いＷｏｒｄ　Ｐｒｏｃｅｓｓｏｒをえっちらおっちらと君が東京から提げてきてくれた３０年前を思い出す。あの時代、日本語操作可能な機械は日本でしか買えなかったものね。君はあのテサゲ輸入操作を三回か四回

繰り返してくれた。ほんとにありがとう。

でもさ、あのころ僕にとっては日本語操作は今度は日本語を習い返すってことだった。ことに、日本語のマニュアルがチンプンカンプンで困った。

コドモだった大連時代、日本の特別高等警察と憲兵の監視を潜り抜けて、タイプライターと英文速記を覚えててよかったな。

ただし、憎まれた。笑。

こっちの英語世界にすんなりと少年ながら滑り込めたし、食って行くのに困らなかった。女の子みたいに、タイプライターが打てる少年は白人世界にだってあのころは居なかった。だから、アメリカのどこでも働けた。

米国陸軍に徴兵されたって、すぐに中隊書記に登用された。それに、覚えていた米語は、戦争中にハワイのＫＲＨＯ放送局を密聴取して覚えたんだものね。

頭脳苦労ってするものさ。老人になっても、ぼけないしね。
★★★